

男女共同参画に関する市民意識調査報告書
【概要版】

令和8年3月

前橋市

目次

I	調査概要	1
II	調査結果概要	2
1	回答者について	2
2	男女平等について	4
3	結婚・家庭生活について	5
4	子育て・介護について	8
5	職業や働き方について	12
6	女性の社会参画について	19
7	男女共同参画を進めるための取組について	21
8	防災について	22
9	仕事と生活の調和（ワークライフバランス）について	23
10	DV（配偶者等からの暴力）について	24
11	困難な問題を抱える方への支援について	27

I 調査概要

1 調査の目的

本市では、市民一人ひとりがお互いを大切に、性別にかかわらず個性を輝かせて生き生きと暮らすことのできる「男女共同参画社会」の実現を目指して、男女共同参画基本計画（第5次）を策定し、様々な取組を進めています。男女共同参画に関する市民の意識や行政へのニーズを把握し、今後の男女共同参画推進施策の基礎資料とすることを目的に、アンケート調査を実施しました。

2 調査の設計

項目	内容
調査期間	令和7年9月1日(月)～9月26日(金)
調査対象	市内在住の18歳以上の方から無作為に選んだ3,000名
抽出方法	住民基本台帳登録者から性別・年齢階層別の人口割合に応じた無作為抽出
調査方法	郵送配布・郵送回収・二次元コードにてWEB回答

3 回収結果

配布数	回収数	有効回収数※	有効回収率
3,000	1,606	1,605 (内WEB636)	53.5%

※すべて無回答の調査票が1件あったため、集計から除外しています。

4 調査内容

- 1 回答者について
- 2 男女平等について
- 3 結婚・家庭生活について
- 4 子育て・介護について
- 5 職業や働き方について
- 6 女性の社会参画について
- 7 男女共同参画を進めるための取組について
- 8 防災について
- 9 仕事と生活の調和（ワークライフバランス）について
- 10 DV（配偶者等からの暴力）について
- 11 困難な問題を抱える方への支援について

5 概要版の見方

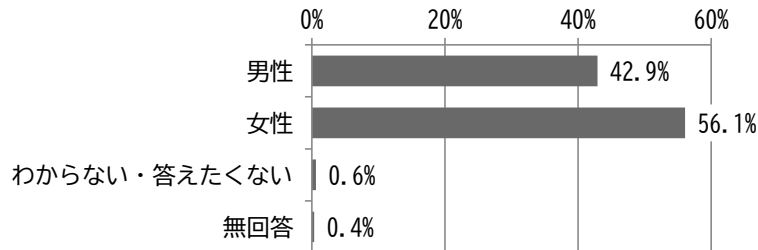
- ①本概要版は、調査結果のポイントをまとめたものです。
- ②注意点、概要版では、調査方法の詳細や全データを省略しています。そのため、詳細情報が必要な場合は本文版を参照してください。
- ③グラフに掲載した“n=〇〇〇”は回答者数（有効回収数）を表します。
- ④単数回答の設問における各選択肢の回答割合（比率）は、非該当者を除いた回答者数を基数とした百分率(%)で示しており、小数点以下第二位を四捨五入して算出しているため、比率の合計は100%にならない場合があります。
- ⑤複数回答の設問における各選択肢の回答割合（比率）は、非該当者を除いた回答者数を基数とした百分率(%)で示しています。したがって、比率の合計値は100%を超えています。
- ⑥図や表、本文では、選択肢の一部や数値の一部を省略している場合があります。
- ⑦概要版で比較に用いている「前回調査」の数値は、令和2年度に前橋市で行った「男女共同参画に関する市民意識調査」のものです。

II 調査結果概要

1 回答者について

A 性別

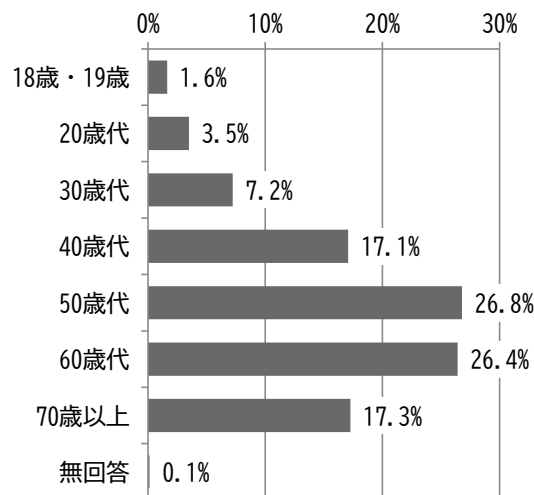
- 「男性」が42.9%、「女性」が56.1%



(n=1,605)

B 年齢

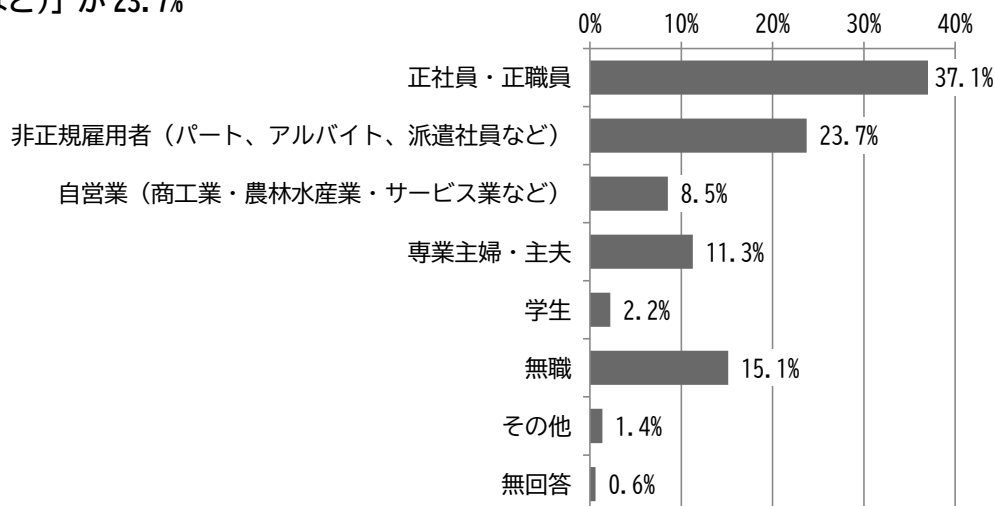
- 「50歳代」が26.8%と最も多く、次いで「60歳代」が26.4%、「70歳以上」が17.3%



(n=1,605)

C 職業

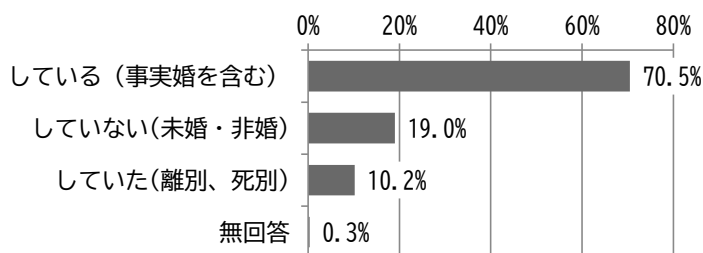
- 「正社員・正職員」が37.1%と最も多く、次いで「非正規雇用者（パート、アルバイト、派遣社員など）」が23.7%



(n=1,605)

D 婚姻状況

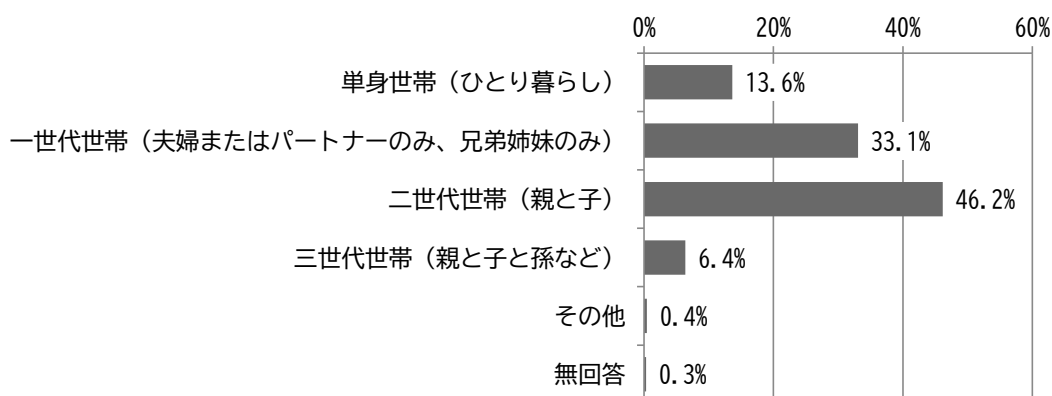
- 結婚の有無については、「している（事実婚を含む）」が 70.5%、「していない（未婚・非婚）」が 19.0%、「していた（離別、死別）」が 10.2%



(n=1,605)

E 世帯状況

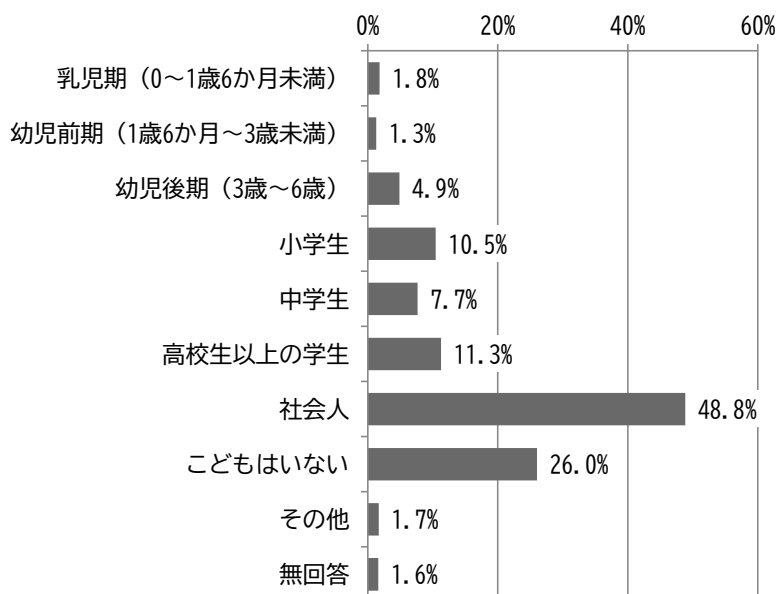
- 世帯状況については、「二世帯世帯（親と子）」が 46.2%と最も多く、次いで「一世帯世帯（夫婦またはパートナーのみ、兄弟姉妹のみ）」が 33.1%、「単身世帯（ひとり暮らし）」が 13.6%



(n=1,605)

F お子さんの有無

- お子さんについては、「社会人」が 48.8%と最も多く、次いで、「高校生以上の学生」が 11.3%一方、「こどもはいない」が 26.0%



(n=1,605)

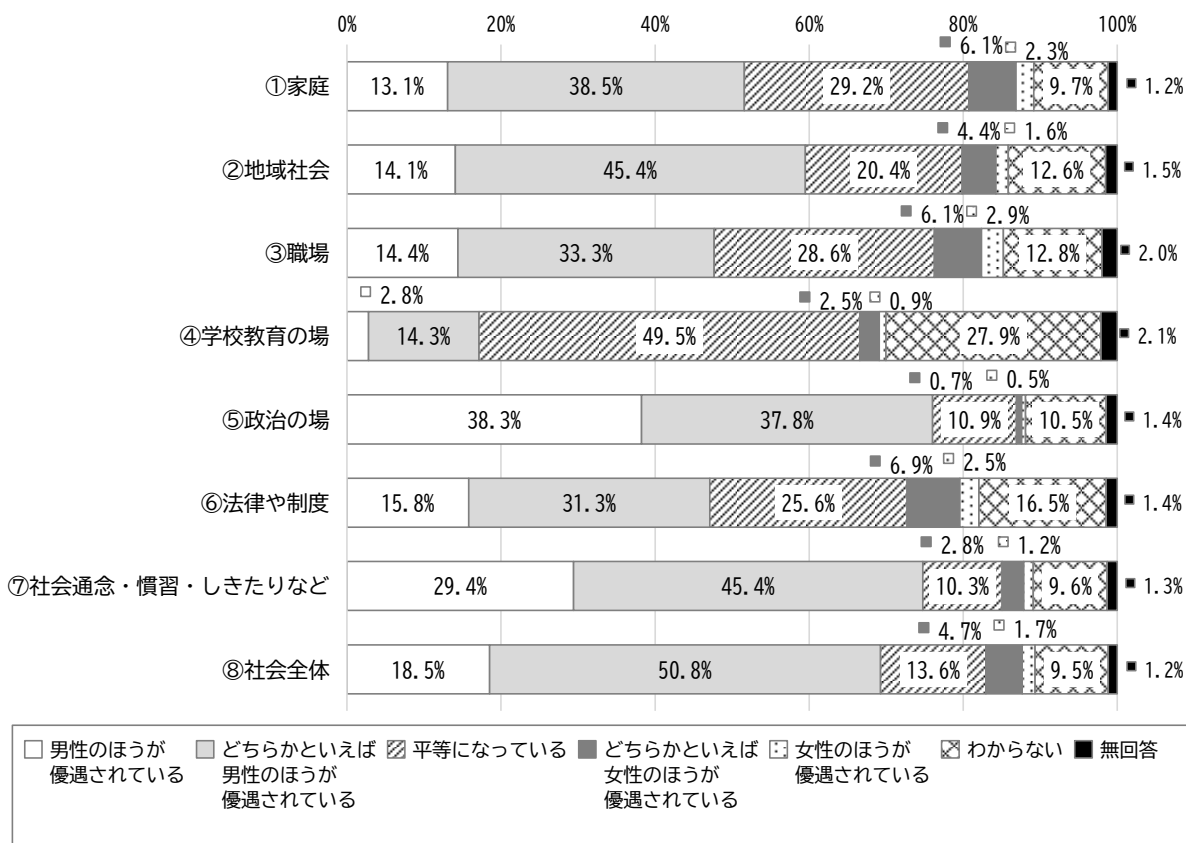
2 男女平等について

今の生活や社会の状況に関する意識 (問1)

■ 「⑤政治の場」で『男性のほうが優遇されている』が8割弱

「平等になっている」では、「④学校教育の場」が 49.5%と最も高く、次いで、「①家庭」が 29.2%、「③職場」が 28.6%となっています。

「男性のほうが優遇されている」「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」を合わせると、「⑤政治の場」が 76.1%と最も多く、次いで「⑦社会通念・慣習・しきたりなど」が 74.8%、「⑧社会全体」が 69.3%となっています。



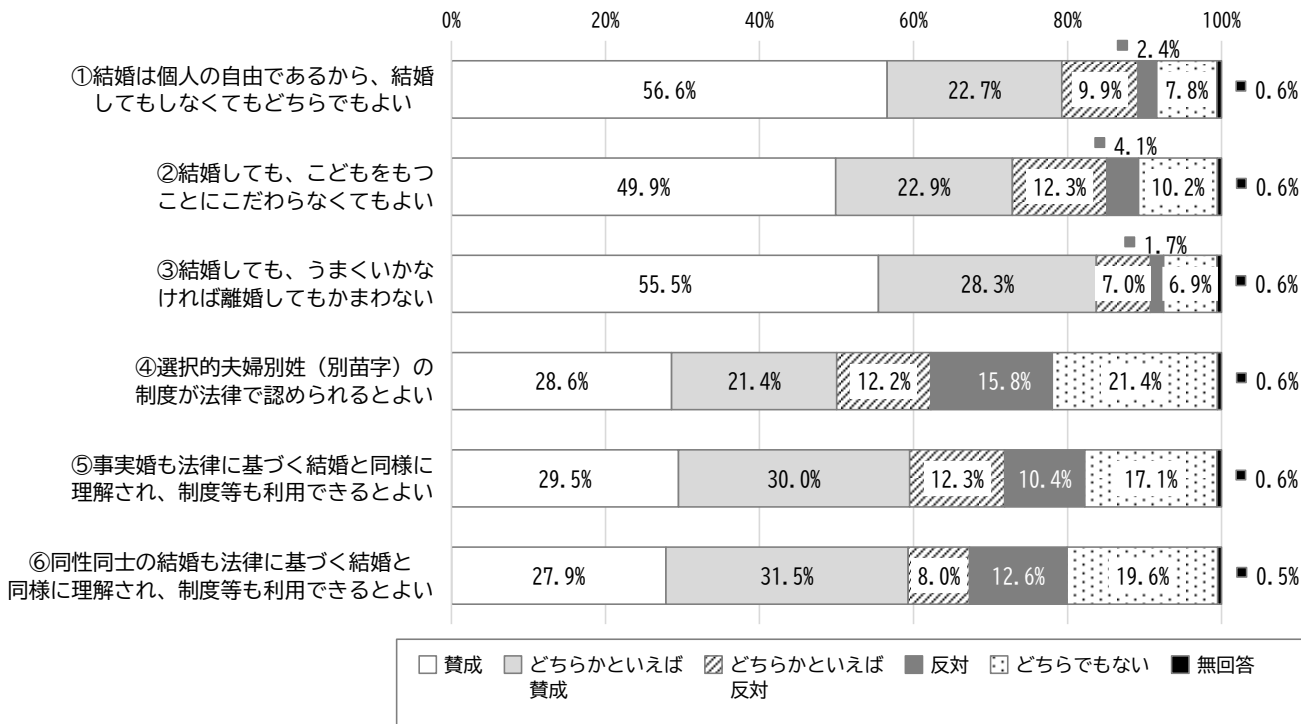
(n=1,605)

3 結婚・家庭生活について

結婚に関する考え方 (問2)

■ 「③結婚しても、うまくいかなければ離婚してもかまわない」が、8割を超える『賛成』

「賛成」「どちらかといえば賛成」を合わせた『賛成』では、「③結婚しても、うまくいかなければ離婚してもかまわない」が 83.8%と最も多く、次いで「①結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい」が 79.3%、「②結婚しても、子どもをもつことにこだわらなくてもよい」が 72.8%となっています。



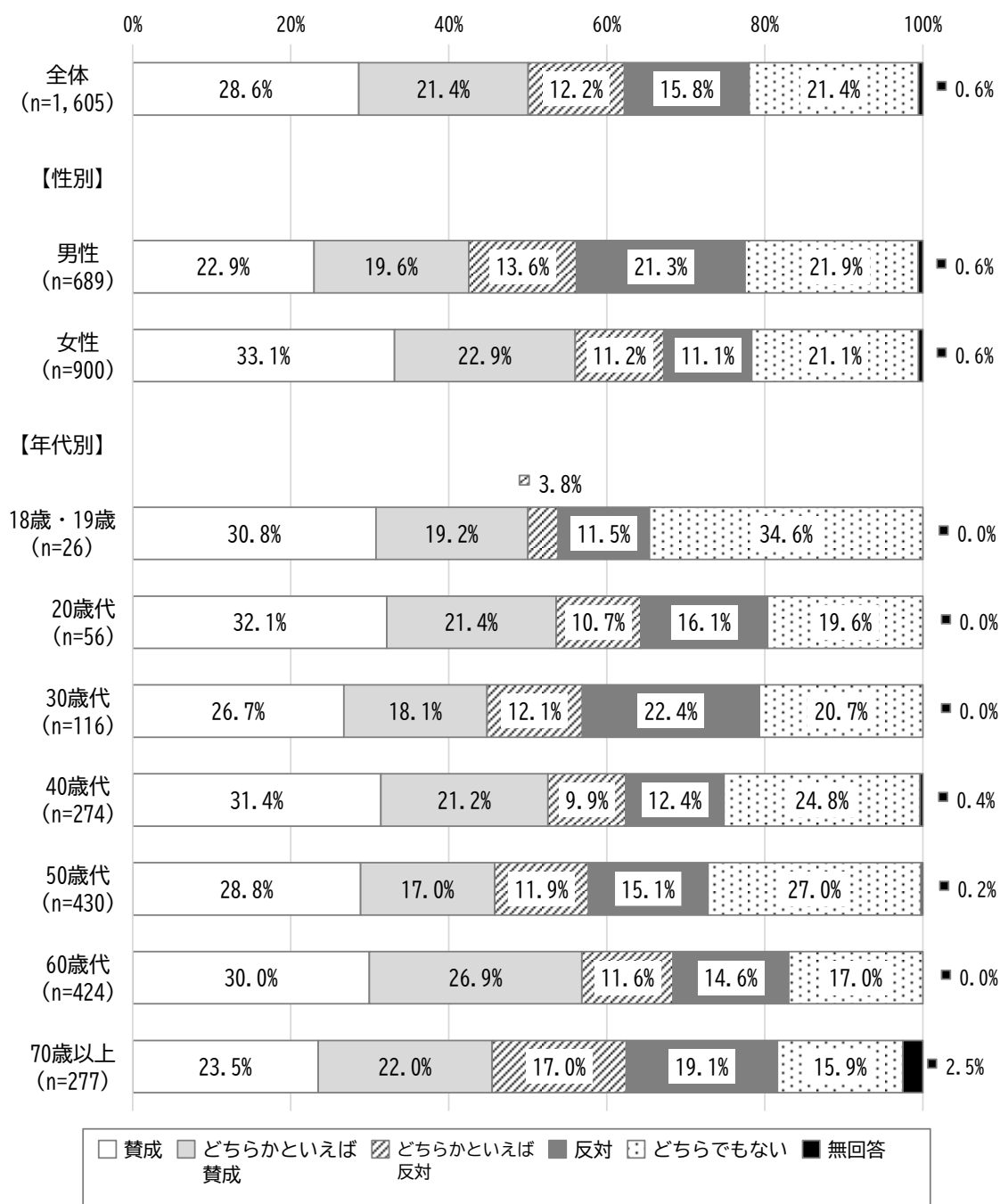
(n=1,605)

【「④ 選択的夫婦別姓（別苗字）の制度が法律で認められるとよい」について】

■ 『賛成』で男性より女性が13.5ポイント多い

選択的夫婦別姓の制度が法律で認められるとよいかについて性別で見ると、『賛成』で男性より女性が13.5ポイント多くなっています。

年代で見ると、『賛成』が20歳代、40歳代、60歳代で多くなっています。



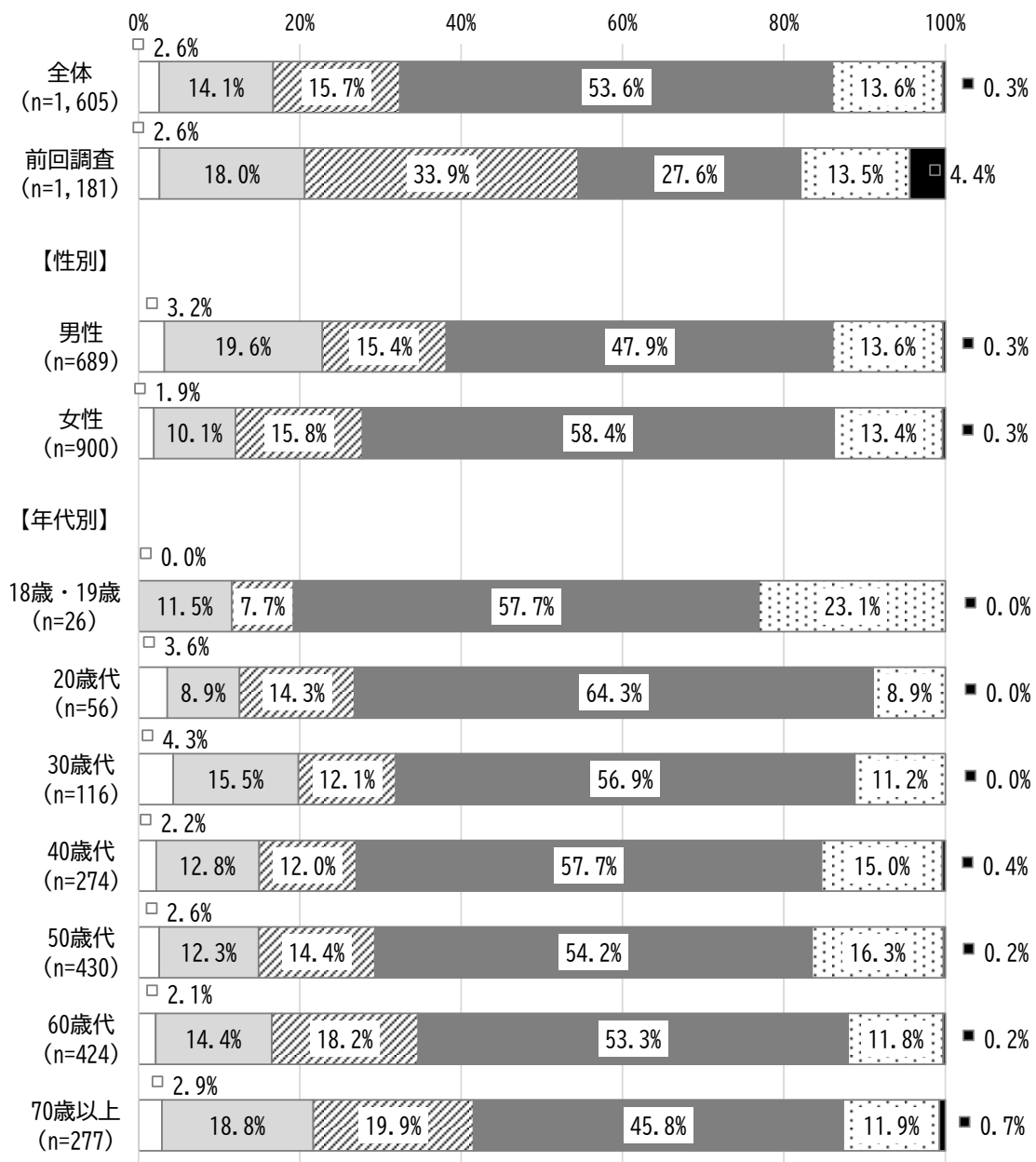
「男は仕事、女は家庭」という考え方（問3）

- 全体は、「男は仕事、女は家庭」について『そう思わない』が7割
- 性別では、『そう思わない』で男性より女性が10.9ポイント多い
- 年代別では、『そう思わない』で20歳代、60歳代がやや多い

「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた『そう思う』が16.7%となっています。一方、「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」を合わせた『そう思わない』が69.3%となっています。

年代で見ると、『そう思わない』が20歳代、60歳代でやや多くなっています。

※前回調査の設問は、選択肢が「賛成」「どちらかといえば賛成」「どちらかといえば反対」「反対」となっており、参考数値



□ そう思う ■ どちらかといえばそう思う ▨ どちらかといえばそう思わない ■ そう思わない ▤ どちらでもない ■ 無回答

4 子育て・介護について

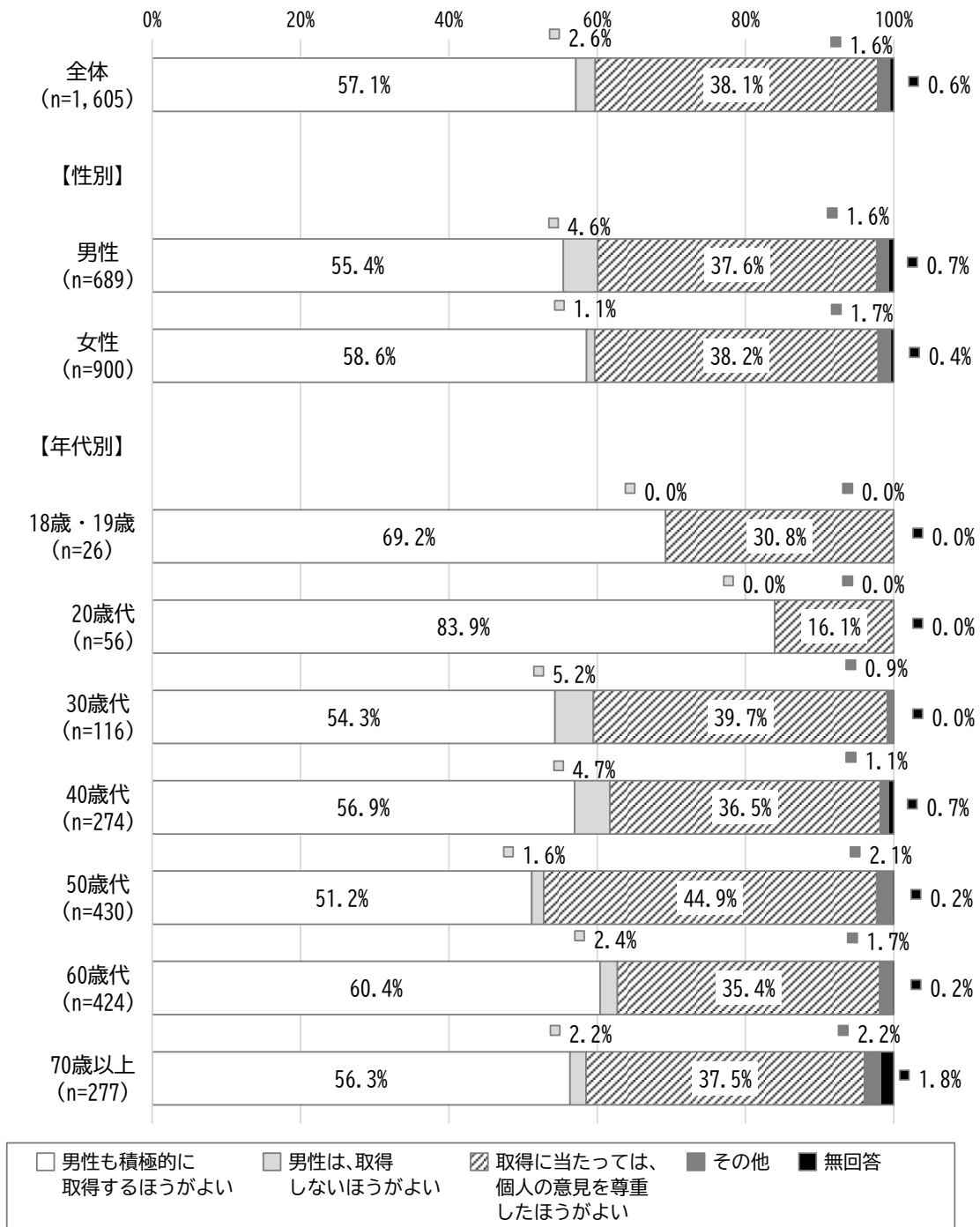
男性の育児休業、出生時育児休業、育児短時間勤務等の取得への意識 (問6A)

- 全体は、「男性も積極的に取得するほうがよい」が6割弱
- 性別では、「男性も積極的に取得するほうがよい」で、男性より女性がやや多い
- 年代別では、「男性も積極的に取得するほうがよい」で20歳代が8割を超えて多い

男性が取得することについては、「男性も積極的に取得するほうがよい」が57.1%と最も多くなっています。

性別で見ると、「男性も積極的に取得するほうがよい」で男性より女性がやや多くなっています。

年代で見ると、「男性も積極的に取得するほうがよい」で20歳代が83.9%と最も多く、「取得に当たっては、個人の意見を尊重したほうがよい」で50歳代が多くなっています。



男性の介護休業、介護休暇等の取得への意識（問8A）

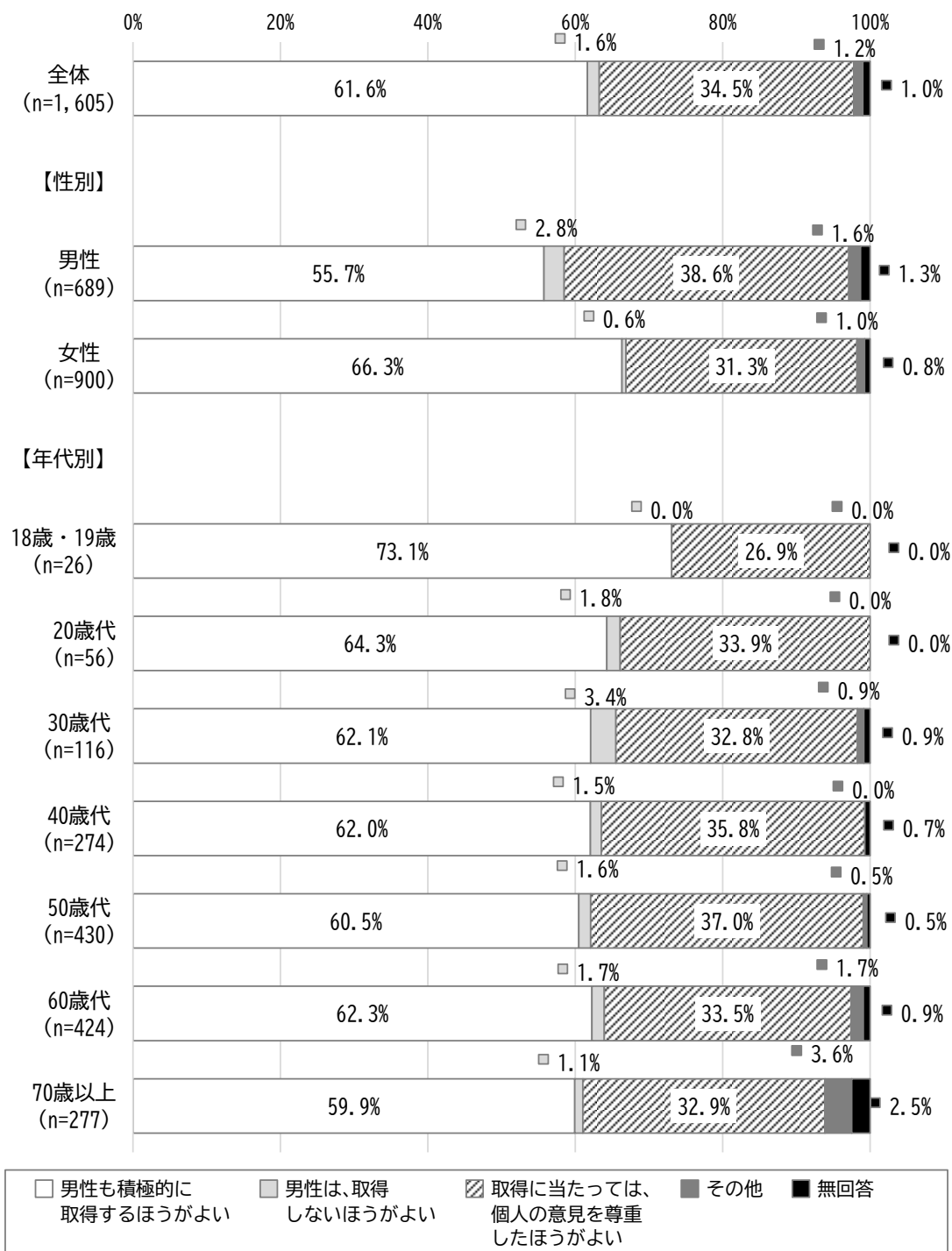
■ 全体は、「男性も積極的に取得するほうがよい」が6割強

■ 性別では、「男性も積極的に取得するほうがよい」で、男性より女性が10.6ポイント多い

「男性も積極的に取得するほうがよい」が61.6%と最も多く、次いで「取得に当たっては、個人の意見を尊重したほうがよい」が34.5%

性別で見ると、「男性も積極的に取得するほうがよい」で男性より女性が10.6ポイント多くなっています。

年代で見ると、年代が若い人ほど「男性も積極的に取得するほうがよい」がやや多くなっています。

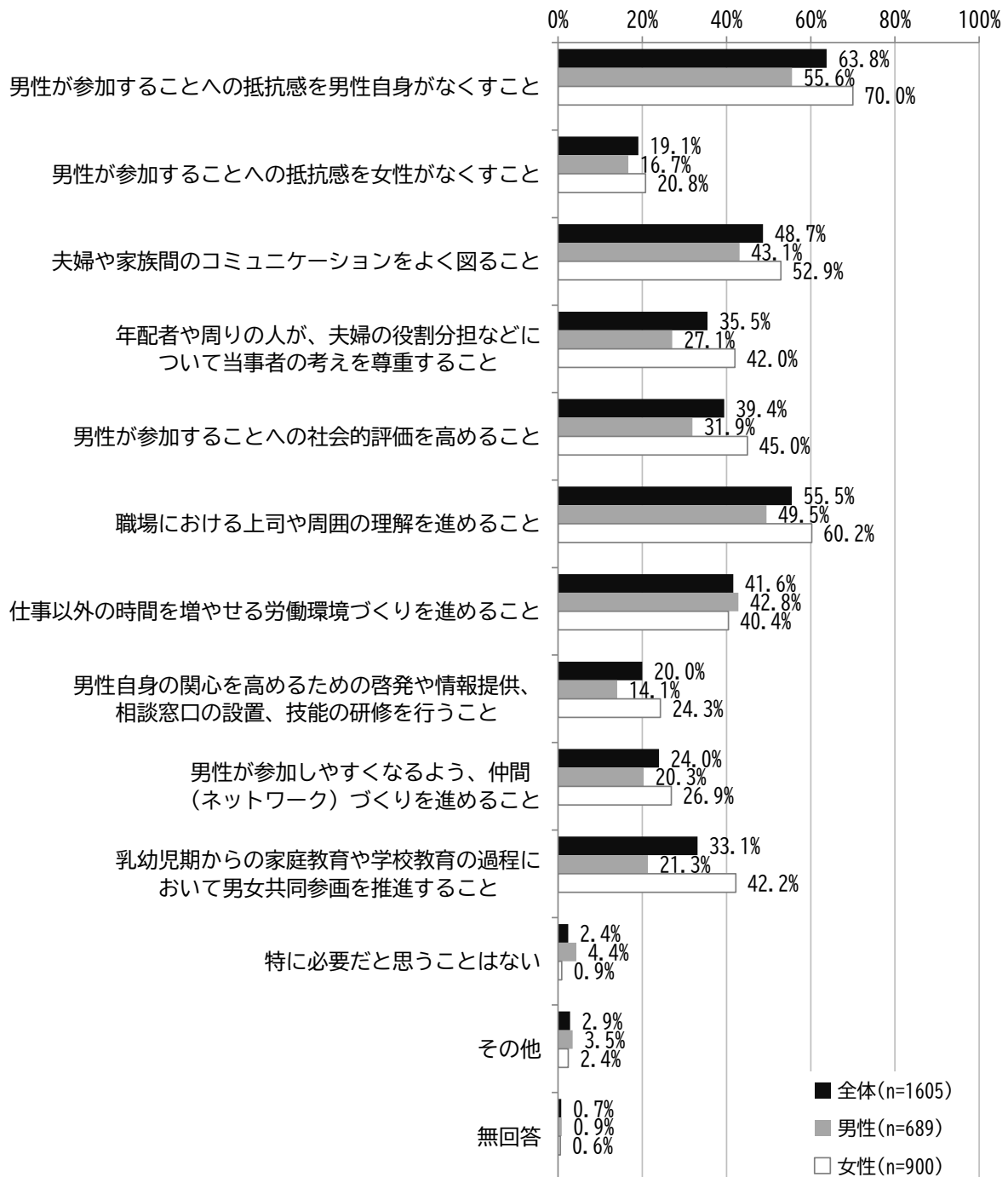


男性が参加するのに必要なこと（問10）

- 全体では、「男性が参加することへの抵抗感を男性自身がなくすこと」が6割強
- 性別では、「乳幼児期からの家庭教育や学校教育の過程において男女共同参画を推進すること」で、男性より女性が20.9ポイント多い

「男性が参加することへの抵抗感を男性自身がなくすこと」が63.8%と最も多く、次いで「職場における上司や周囲の理解を進めること」が55.5%、「夫婦や家族間のコミュニケーションをよく図ること」が48.7%となっています。

性別で見ると「乳幼児期からの家庭教育や学校教育の過程において男女共同参画を推進すること」で、男性より女性が20.9ポイント多く、その他の多くの項目でも男性より女性が多くなっています。



【年代別集計】

■ 年代別では、「男性が参加することへの抵抗感を男性自身がなくすこと」で、全体が6割強

男性が、家事、育児、介護、地域活動に積極的に参加するために必要だと思うことについて、年代別で見ると、「仕事以外の時間を増やせる労働環境づくりを進めること」で、年代が若い人ほど回答が多くなっています。

項目	18歳・19歳 (n=26)	20歳代 (n=56)	30歳代 (n=116)	40歳代 (n=274)	50歳代 (n=430)	60歳代 (n=424)	70歳以上 (n=277)
男性が参加することへの抵抗感を男性自身がなくすこと	69.2%	64.3%	69.0%	62.8%	62.6%	65.6%	61.4%
男性が参加することへの抵抗感を女性がなくすこと	30.8%	21.4%	26.7%	17.5%	21.2%	17.0%	15.5%
夫婦や家族間のコミュニケーションをよく図ること	53.8%	50.0%	62.1%	43.8%	42.3%	52.4%	51.3%
年配者や周りの人が、夫婦の役割分担などについて当事者の考えを尊重すること	46.2%	39.3%	37.1%	39.4%	34.2%	35.1%	31.8%
男性が参加することへの社会的評価を高めること	42.3%	39.3%	36.2%	39.1%	39.5%	42.2%	36.5%
職場における上司や周囲の理解を進めること	57.7%	58.9%	56.9%	59.1%	53.7%	53.8%	56.3%
仕事以外の時間を増やせる労働環境づくりを進めること	30.8%	55.4%	56.9%	46.7%	45.8%	35.1%	32.1%
男性自身の関心を高めるための啓発や情報提供、相談窓口の設置、技能の研修を行うこと	42.3%	12.5%	20.7%	18.2%	17.7%	21.9%	21.3%
男性が参加しやすくなるよう、仲間（ネットワーク）づくりを進めること	38.5%	30.4%	27.6%	20.4%	22.3%	23.6%	26.7%
乳幼児期からの家庭教育や学校教育の過程において男女共同参画を推進すること	30.8%	21.4%	31.9%	27.4%	31.2%	38.7%	36.5%
特に必要だと思うことはない	3.8%	1.8%	3.4%	2.2%	2.6%	2.4%	2.2%
その他	3.8%	0.0%	0.9%	3.6%	3.5%	3.3%	1.8%
無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.4%	0.2%	0.5%	2.5%

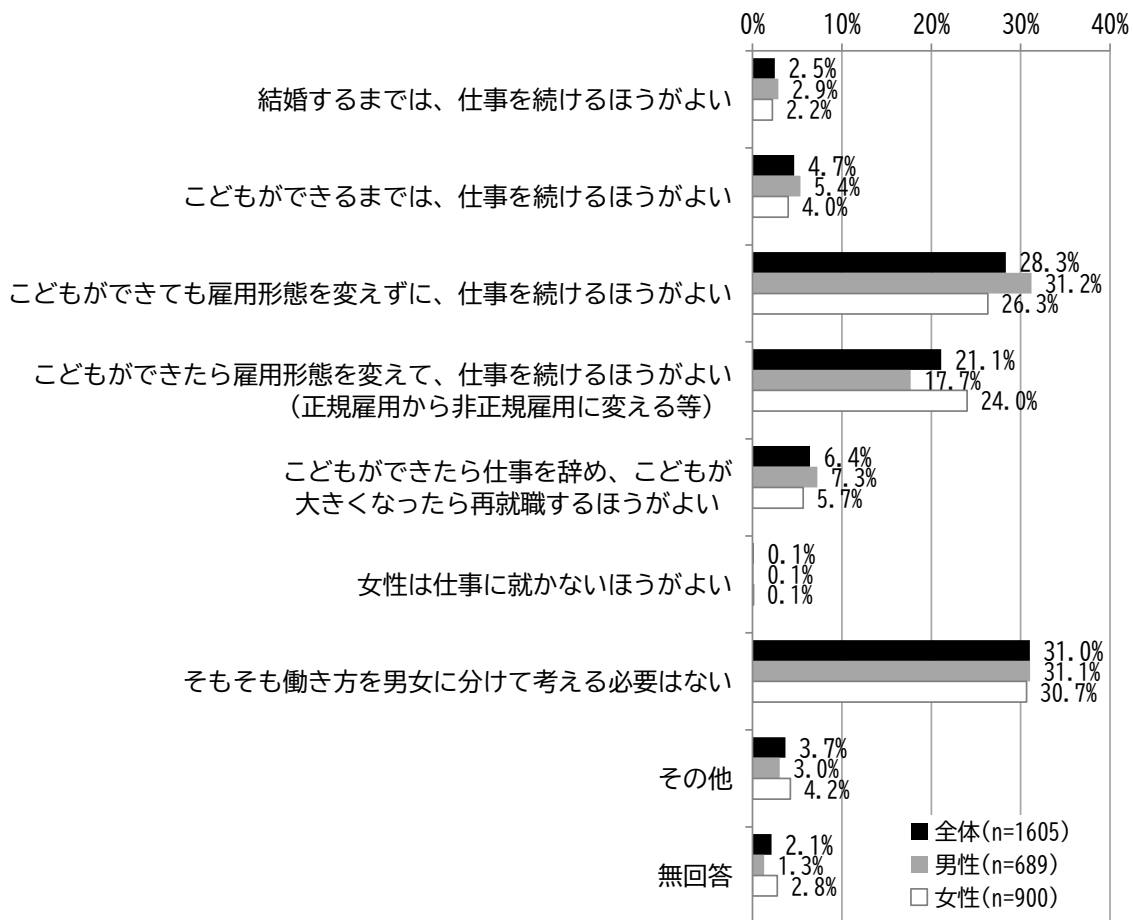
5 職業や働き方について

女性の働き方の意識 (問 11)

- 全体では、「そもそも働き方を男女に分けて考える必要はない」が約3割
- 性別では、「子どもができたら雇用形態を変えて、仕事を続けるほうがよい」で男性より女性が6.3ポイント多い

「そもそも働き方を男女に分けて考える必要はない」が31.0%と最も多く、次いで「子どもができて雇用形態を変えずに、仕事を続けるほうがよい」が28.3%、「子どもができたら雇用形態を変えて、仕事を続けるほうがよい（正規雇用から非正規雇用に変える等）」が21.1%となっています。

性別で見ると「子どもができたら雇用形態を変えて、仕事を続けるほうがよい（正規雇用から非正規雇用に変える等）」で男性より女性が6.3ポイント多く、「子どもができて雇用形態を変えずに、仕事を続けるほうがよい」で女性より男性が4.9ポイント多くなっています。



【年代別集計】

■ 年代別では、「そもそも働き方を男女に分けて考える必要はない」で、40歳代が4割

「女性の働き方」について、年代で見ると「こどもができて雇用形態を変えずに、仕事を続けるほうがよい」で年代が上がるほど多く、「そもそも働き方を男女に分けて考える必要はない」で、年代が若い人ほど回答が多くなっています。

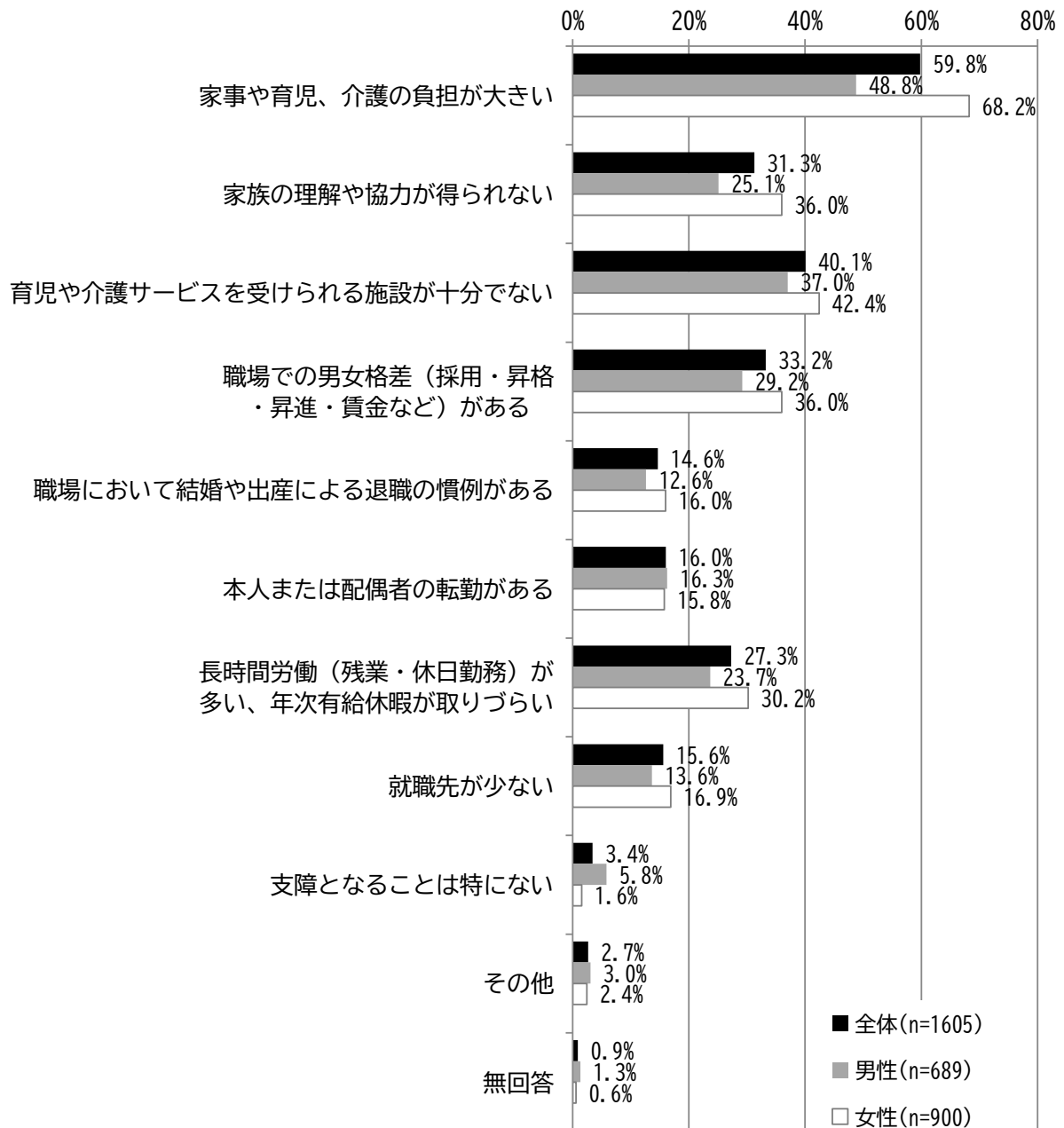
項目	18歳・19歳 (n=26)	20歳代 (n=56)	30歳代 (n=116)	40歳代 (n=274)	50歳代 (n=430)	60歳代 (n=424)	70歳以上 (n=277)
結婚するまでは、仕事を続けるほうがよい	3.8%	5.4%	4.3%	1.5%	1.2%	4.2%	1.4%
こどもができるまでは、仕事を続けるほうがよい	7.7%	3.6%	6.9%	4.0%	4.4%	3.5%	6.1%
こどもができて雇用形態を変えずに、仕事を続けるほうがよい	3.8%	21.4%	21.6%	24.8%	27.9%	33.3%	31.8%
こどもができた雇用形態を変えて、仕事を続けるほうがよい（正規雇用から非正規雇用に変える等）	26.9%	26.8%	19.8%	20.4%	17.4%	23.1%	23.1%
こどもができた仕事を辞め、こどもが大きくなったら再就職するほうがよい	0.0%	1.8%	7.8%	5.1%	5.6%	5.9%	10.8%
女性は仕事に就かないほうがよい	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.2%	0.4%
そもそも働き方を男女に分けて考える必要はない	50.0%	37.5%	37.1%	41.2%	34.9%	24.5%	19.5%
その他	7.7%	3.6%	2.6%	2.2%	6.0%	3.3%	2.2%
無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.7%	2.6%	1.9%	4.7%
回答者数	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

女性が働く上で、問題となること（問12）

- 全体は、「家事や育児、介護の負担が大きい」が、6割
- 性別では、「家事や育児、介護の負担が大きい」で、男性より女性が19.4ポイント多い

「家事や育児、介護の負担が大きい」が59.8%と最も多く、次いで「育児や介護サービスを受けられる施設が十分でない」が40.1%となっています。

性別で見ると「家事や育児、介護の負担が大きい」で男性より女性が19.4ポイント多くなっています。



【年代別集計】

■ 年代別では、「家事や育児、介護の負担が大きい」で、70歳以上が7割

女性が働く上で、問題となることについて、年代で見ると「家事や育児、介護の負担が大きい」で年代が上がるほど多く、「職場での男女格差（採用・昇格・昇進・賃金など）がある」「職場において結婚や出産による退職の慣例がある」で、年代が若い人ほど回答が多くなっています。

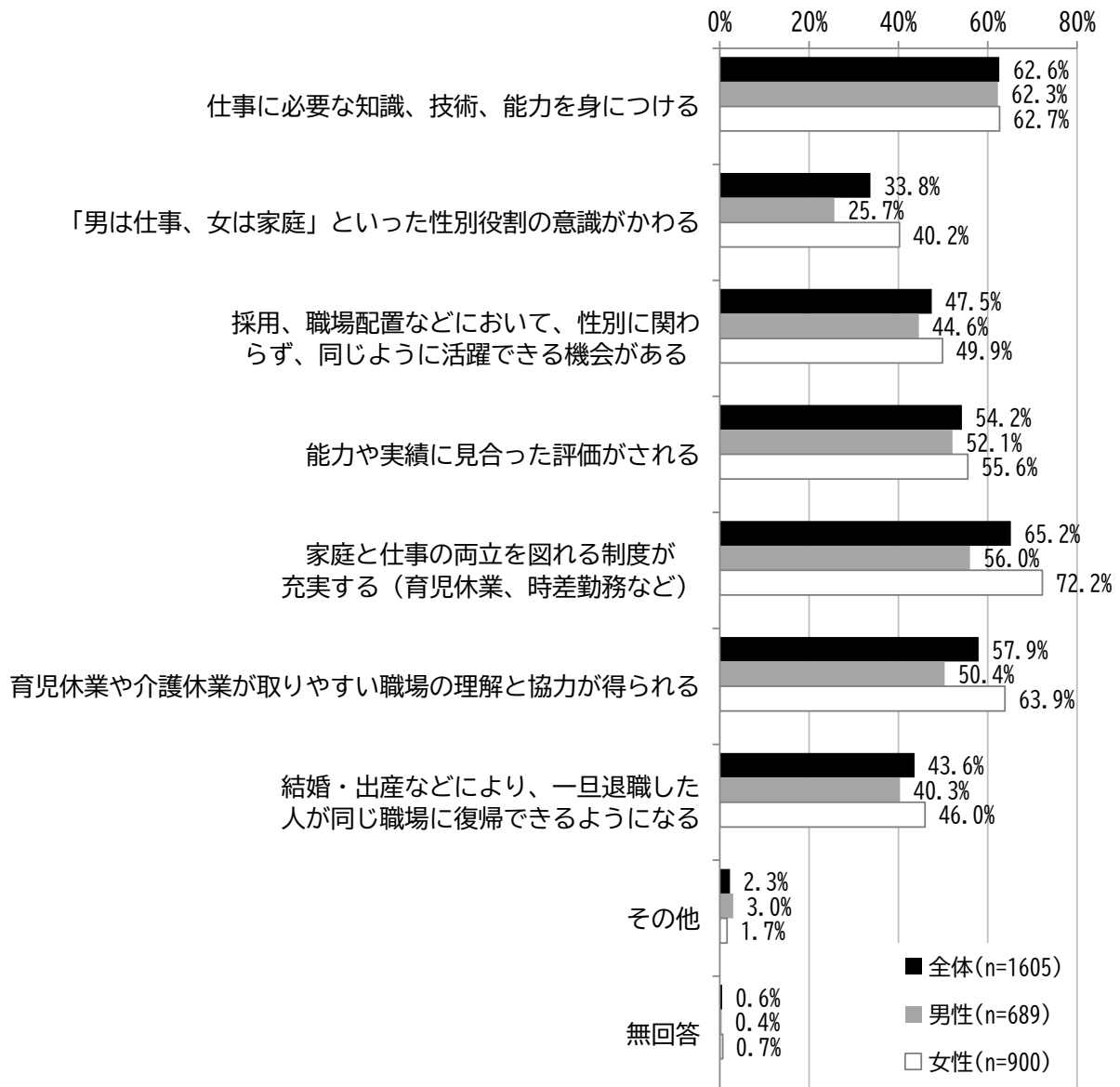
項目	18歳・19歳 (n=26)	20歳代 (n=56)	30歳代 (n=116)	40歳代 (n=274)	50歳代 (n=430)	60歳代 (n=424)	70歳以上 (n=277)
家事や育児、介護の負担が大きい	57.7%	30.4%	48.3%	51.8%	58.4%	65.8%	71.8%
家族の理解や協力が得られない	34.6%	21.4%	36.2%	29.6%	32.6%	32.5%	28.9%
育児や介護サービスを受けられる施設が 十分でない	38.5%	26.8%	42.2%	35.4%	38.6%	45.5%	40.8%
職場での男女格差（採用・昇格・昇進・ 賃金など）がある	42.3%	35.7%	37.1%	36.1%	31.2%	34.2%	28.9%
職場において結婚や出産による退職の慣 例がある	26.9%	25.0%	19.0%	14.6%	14.0%	14.2%	11.2%
本人または配偶者の転勤がある	26.9%	28.6%	17.2%	13.9%	13.7%	18.4%	14.1%
長時間労働（残業・休日勤務）が多い、 年次有給休暇が取りづらい	26.9%	32.1%	36.2%	33.6%	25.6%	25.2%	22.4%
就職先が少ない	19.2%	8.9%	18.1%	18.2%	14.9%	15.8%	13.4%
支障となることは特にない	3.8%	1.8%	5.2%	1.8%	5.3%	2.8%	2.5%
その他	3.8%	0.0%	3.4%	1.8%	3.5%	2.4%	2.9%
無回答	0.0%	0.0%	0.9%	0.4%	0.2%	0.5%	3.2%

職場での能力発揮や継続勤務のために重要なこと (問 14)

- 全体では、働き続けるために重要なことは、「家庭と仕事の両立を図れる制度が充実する」が、6割強
- 性別では、「家庭と仕事の両立を図れる制度が充実する」で、男性より女性が16.2ポイント多い

「家庭と仕事の両立を図れる制度が充実する（育児休業、時差勤務など）」が65.2%と最も多く、次いで「仕事に必要な知識、技術、能力を身につける」が62.6%となっています。

性別で見ると「家庭と仕事の両立を図れる制度が充実する（育児休業、時差勤務など）」で男性より女性が16.2ポイント多く、「男は仕事、女は家庭」といった性別役割の意識がかわる」で14.5ポイント多くなっています。

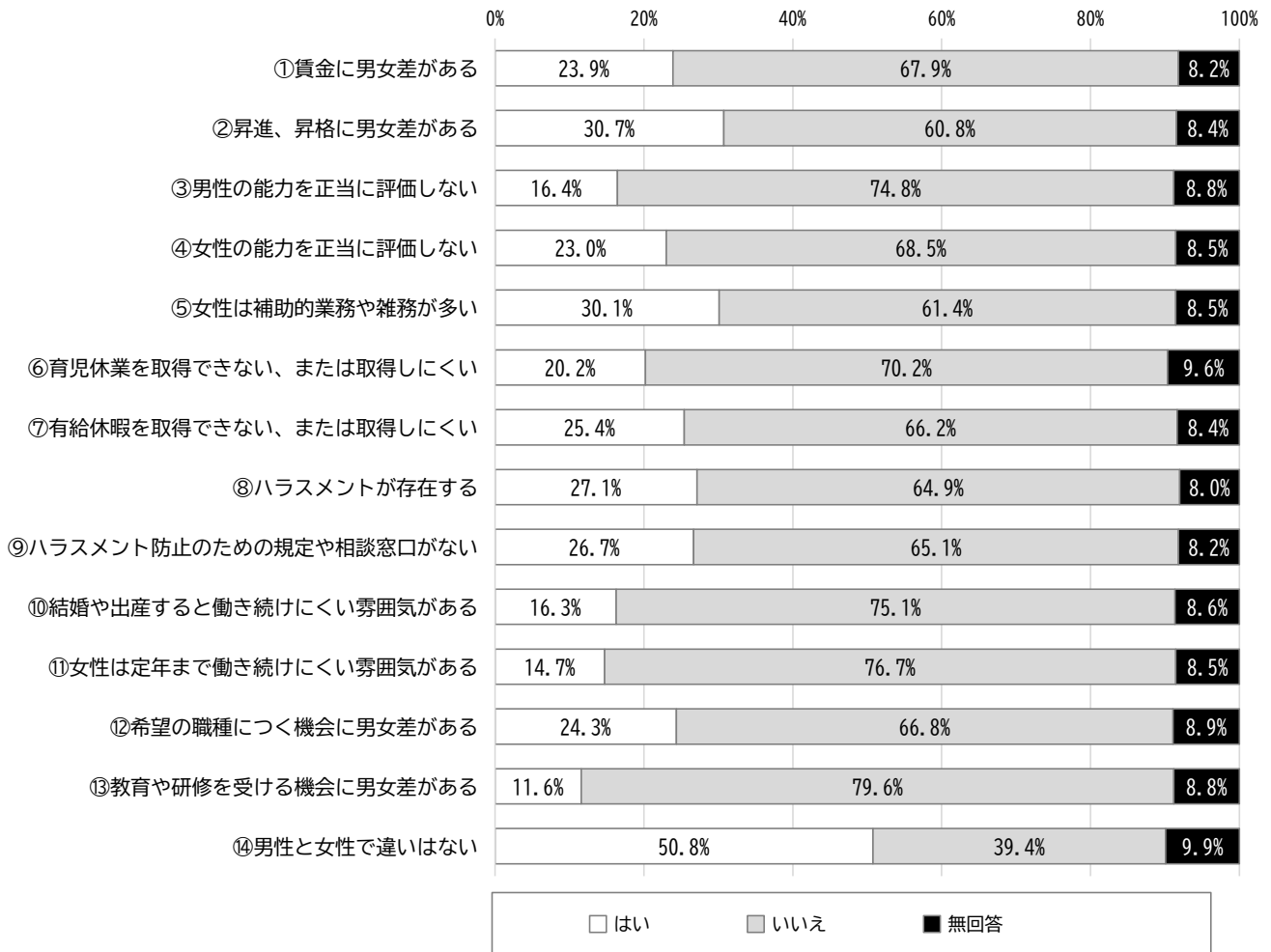


職場での男女差について (問 15)

※現在働いている方の回答

■ 職場では、「⑭男性と女性で違いはない」が、5割

男女ともに「男性と女性で違いはない」が 50.8%と最も多く、次いで、「昇進、昇格に男女差がある」が 30.7%で「女性は補助的業務や雑務が多い」が 30.1%と続いています。



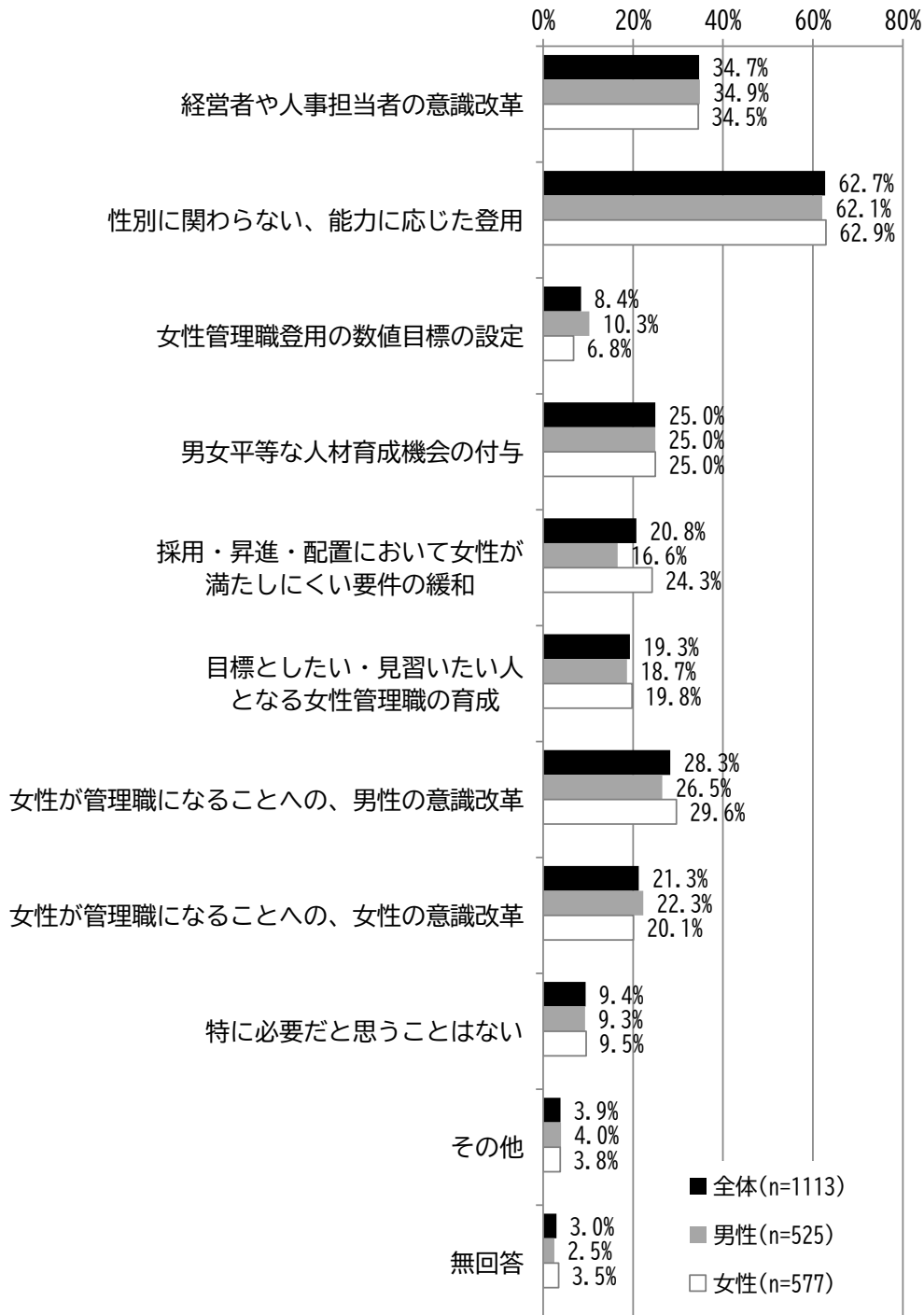
(n=1,113)

職場で、女性管理職への登用に必要なこと (問 17)

- 全体では、「性別に関わらない、能力に応じた登用」が6割強
- 性別では、「採用・昇進・配置において女性が満たしにくい要件の緩和」で、男性より女性が7.7ポイント多い

「性別に関わらない、能力に応じた登用」が62.7%と最も多く、次いで「経営者や人事担当者の意識改革」が34.7%、「女性が管理職になることへの、男性の意識改革」が28.3%となっています。

性別で見ると「採用・昇進・配置において女性が満たしにくい要件の緩和」で男性より女性が7.7ポイント多くなっています。



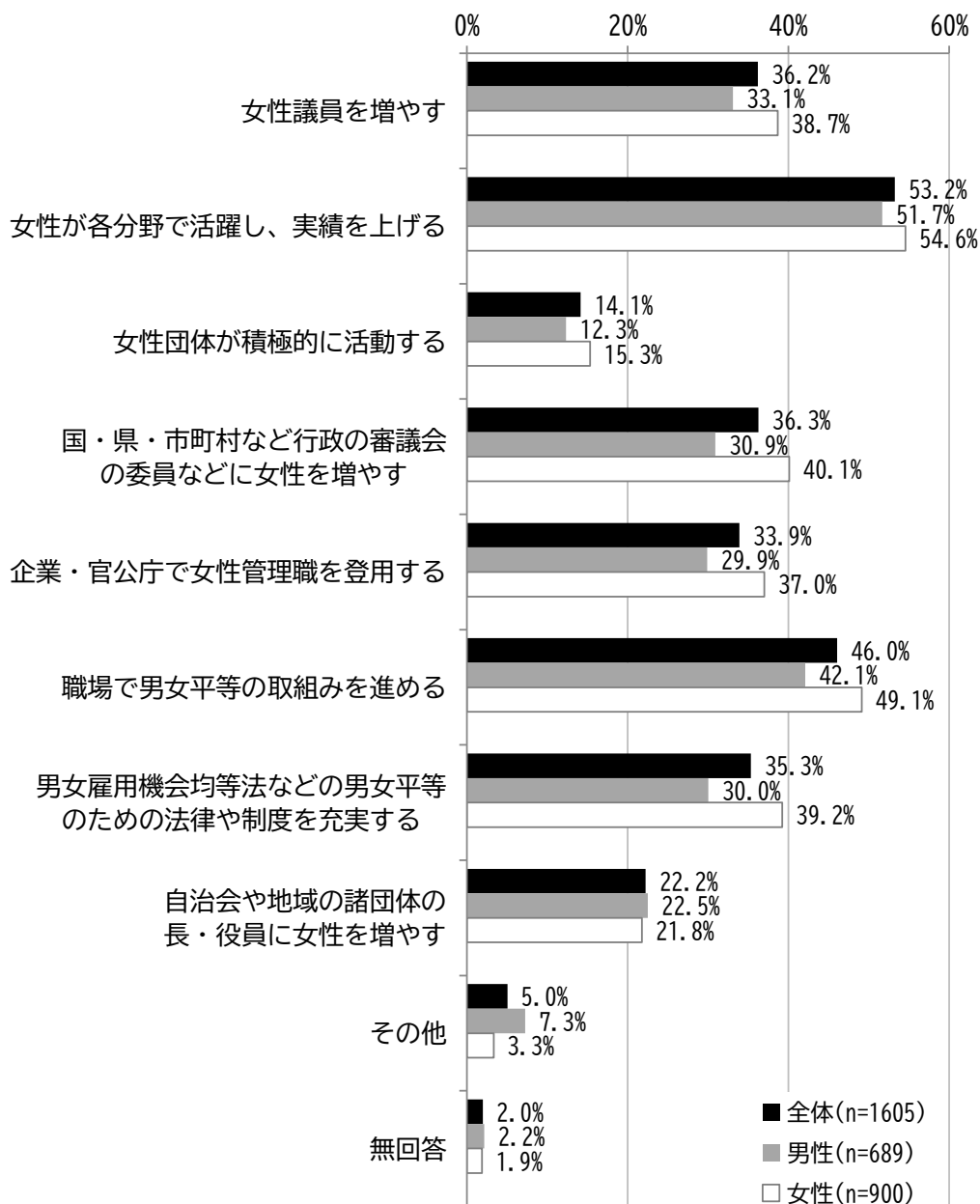
6 女性の社会参画について

女性の社会参画で大切なこと (問 19)

- 全体では、「女性が各分野で活躍し、実績を上げる」が5割強
- 性別では、「国・県・市町村など行政の審議会の委員などに女性を増やす」「男女雇用機会均等法などの男女平等のための法律や制度を充実する」で、男性より女性がそれぞれ9.2ポイント多い

「女性が各分野で活躍し、実績を上げる」が53.2%と最も多く、次いで「職場で男女平等の取組みを進める」が46.0%、「国・県・市町村など行政の審議会の委員などに女性を増やす」が36.3%、「女性議員を増やす」が36.2%となっています。

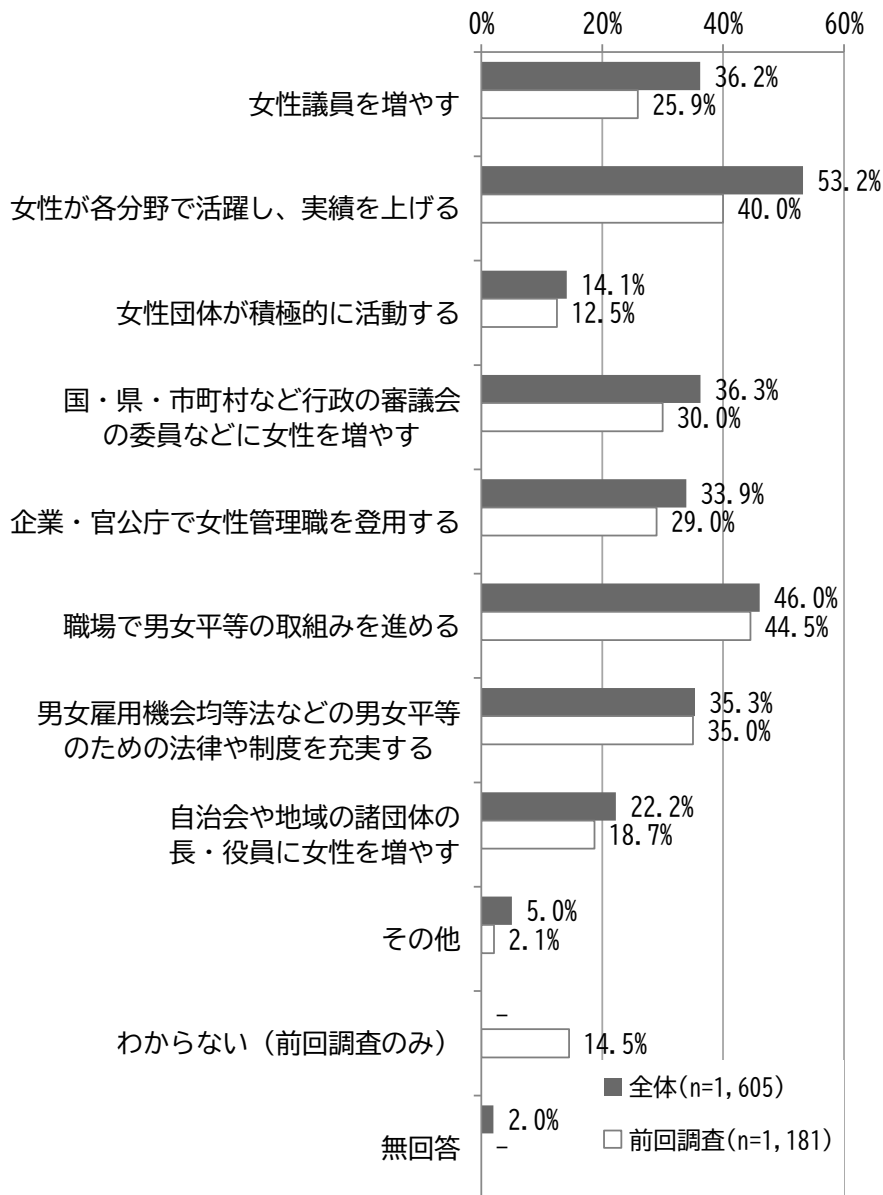
性別で見ると「国・県・市町村など行政の審議会の委員などに女性を増やす」「男女雇用機会均等法などの男女平等のための法律や制度を充実する」で、男性より女性がそれぞれ9.2ポイント多くなっています。



【前回調査比較】

■ 「女性が各分野で活躍し、実績を上げる」が、前回調査より 13.2 ポイント多い

行政や企業、社会的活動などの方針決定への女性の参画を図る上で大切なことについて、前回調査と比較すると「女性が各分野で活躍し、実績を上げる」が前回調査より 13.2 ポイント多くなっています。



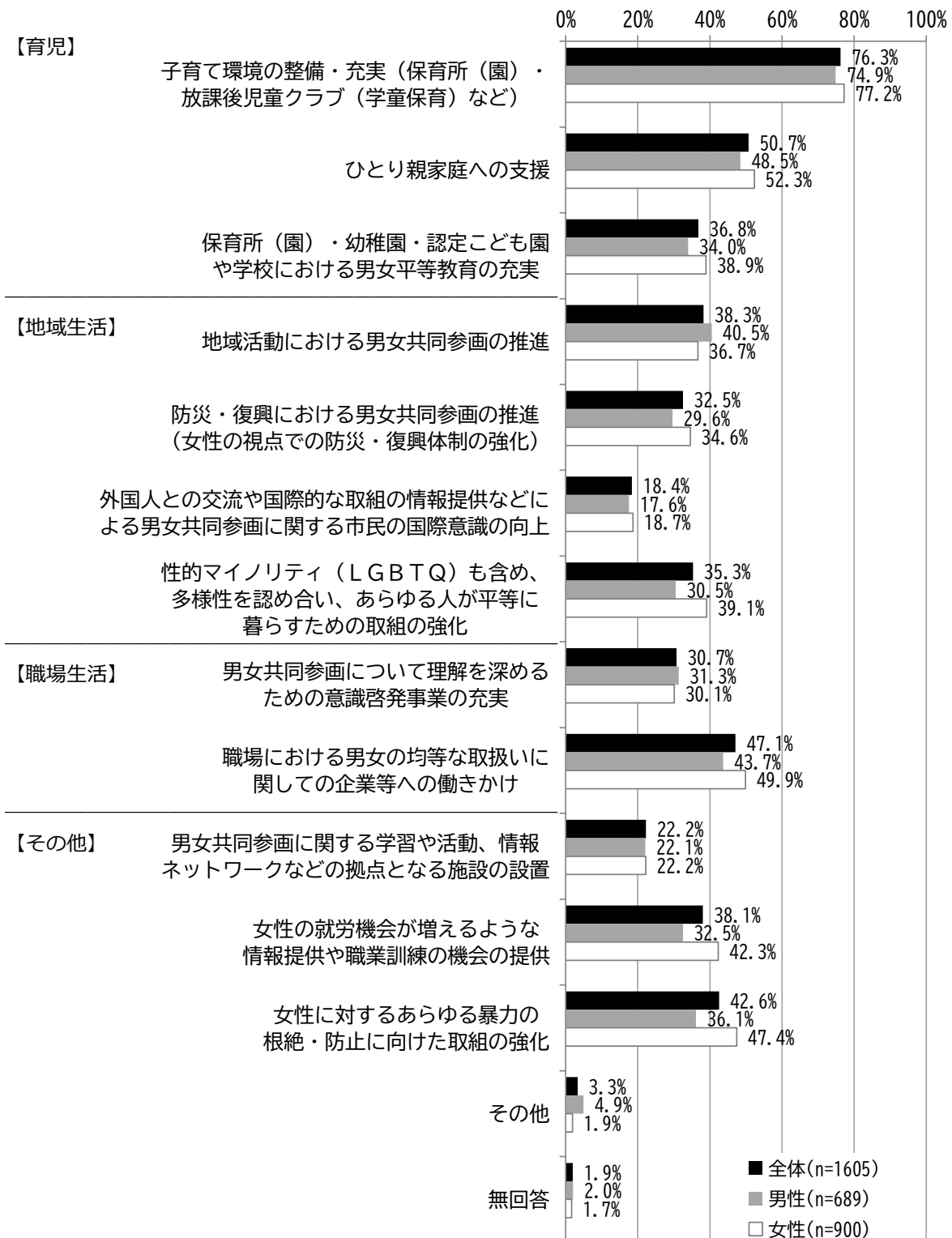
7 男女共同参画を進めるための取組について

男女共同参画推進のために市で力を入れるべきこと (問 21)

- 全体では、「子育て環境の整備・充実・放課後児童クラブなど」が、8割弱
- 性別では、「女性に対するあらゆる暴力の根絶・防止に向けた取組の強化」で、男性より女性が 11.3 ポイント多い

男女共同参画社会を進めるために、今後、市で力を入れるべきこととして、「子育て環境の整備・充実（保育所（園）・放課後児童クラブ（学童保育）など）」が 76.3%と最も多く、次いで「ひとり親家庭への支援」が 50.7%、「職場における男女の均等な取扱いについての企業等への働きかけ」が 47.1%、「女性に対するあらゆる暴力の根絶・防止に向けた取組の強化」が 42.6%となっています。

性別で見ると「女性に対するあらゆる暴力の根絶・防止に向けた取組の強化」で男性より女性が 11.3 ポイント多くなっています。



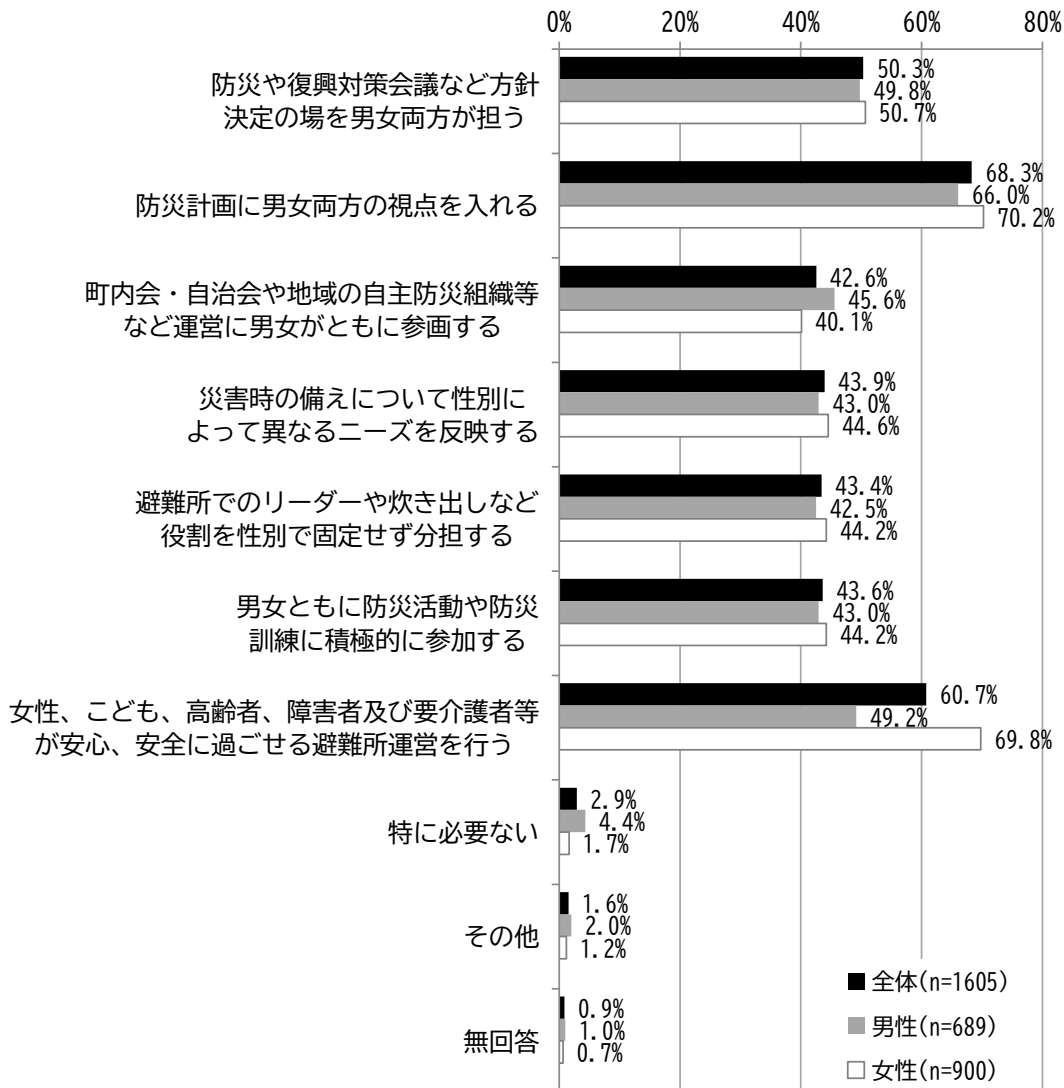
8 防災について

防災分野での男女共同参画の視点（問 22）

- 全体では、「防災計画に男女両方の視点を入れる」が、7割弱
- 性別では、「女性、子ども、高齢者、障害者及び要介護者等が安心、安全に過ごせる避難所運営を行う」で、男性より女性が 20.6 ポイント多い

「防災計画に男女両方の視点を入れる」が 68.3%と最も多く、次いで「女性、子ども、高齢者、障害者及び要介護者等が安心、安全に過ごせる避難所運営を行う」が 60.7%、「防災や復興対策会議など方針決定の場を男女両方が担う」が 50.3%となっています。

性別で見ると「女性、子ども、高齢者、障害者及び要介護者等が安心、安全に過ごせる避難所運営を行う」で男性より女性が 20.6 ポイント多くなっています。



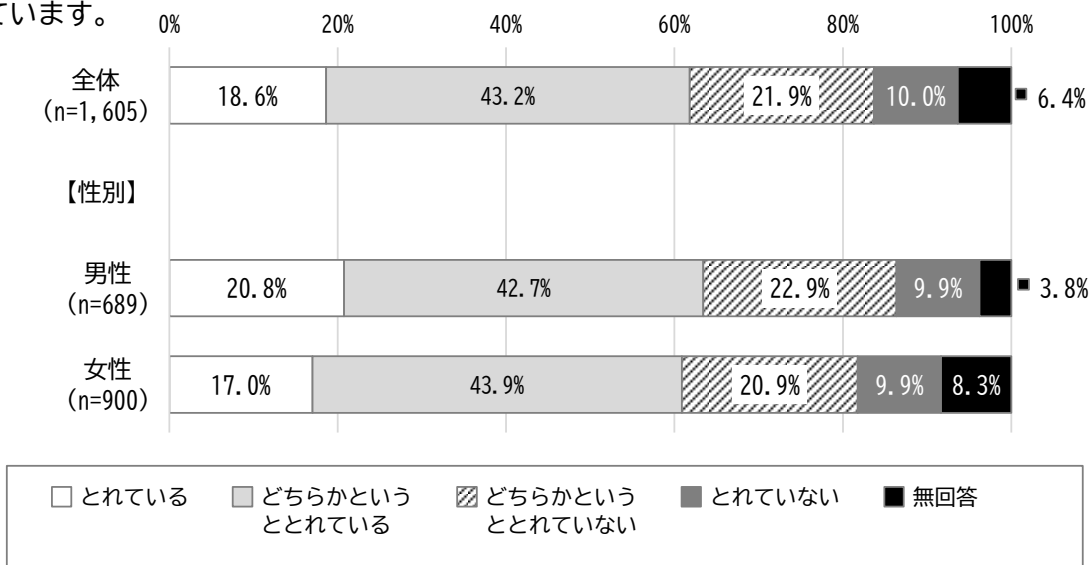
9 仕事と生活の調和(ワークライフバランス)について

仕事と生活の調和(ワークライフバランス) 取得状況 (問23)

■ 全体では、ワークライフバランスが『とれている』で6割

■ 男女別では、ワークライフバランスが『とれている』のは、女性より男性がやや多い

「とれている」「どちらかというのとれている」を合わせた『とれている』が 61.8%となっています。一方、「どちらかというのとれていない」「とれていない」を合わせた『とれていない』が 31.9%となっています。

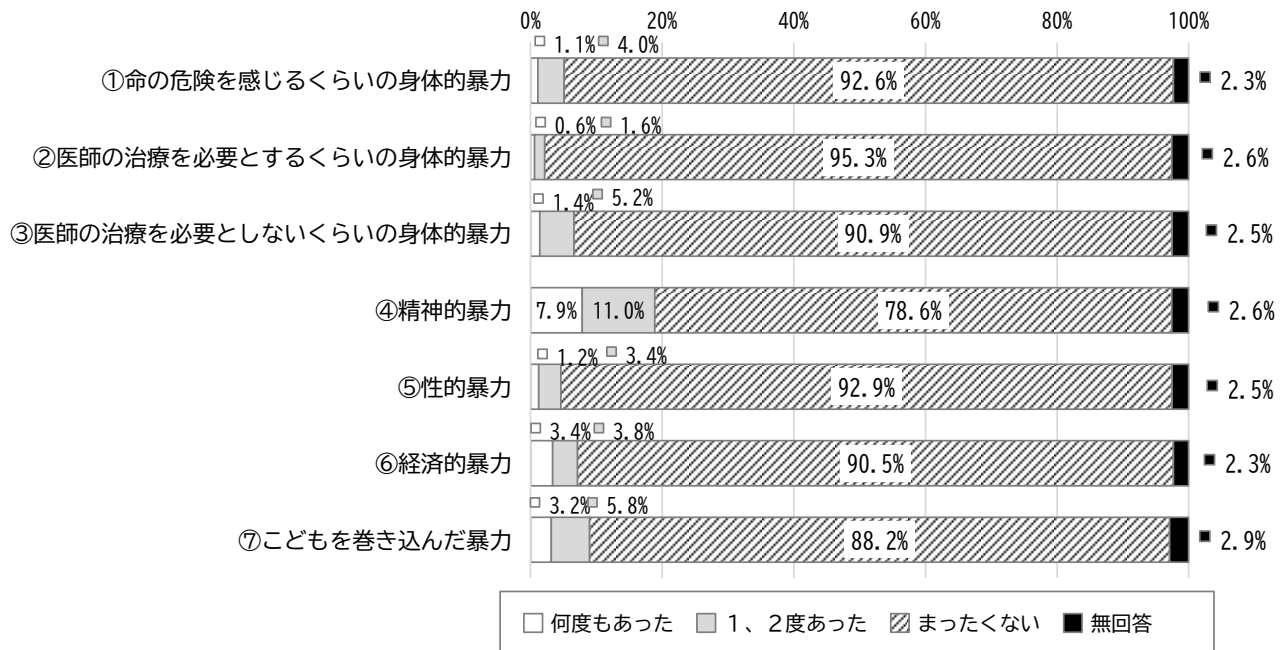


10 DV(配偶者等からの暴力)について

配偶者や交際相手からの暴力の有無 (問 25)

■ 配偶者や交際相手などから「④精神的暴力」が『あった』で、2割弱

「何度もあった」「1、2度あった」を合わせた『あった』では、「④精神的暴力(おどす、無視する、人格を否定するような言葉を使う、交友関係や行動を監視するなど)」が18.9%、「⑦子どもを巻き込んだ暴力(子どもの目の前で暴力・暴言など)」が9.0%「⑥経済的暴力(生活費を渡さない、働くことを妨害するなど)」が7.2%となっています。



(n=1,605)

暴力を受けた時の相談状況 (問 25-1)

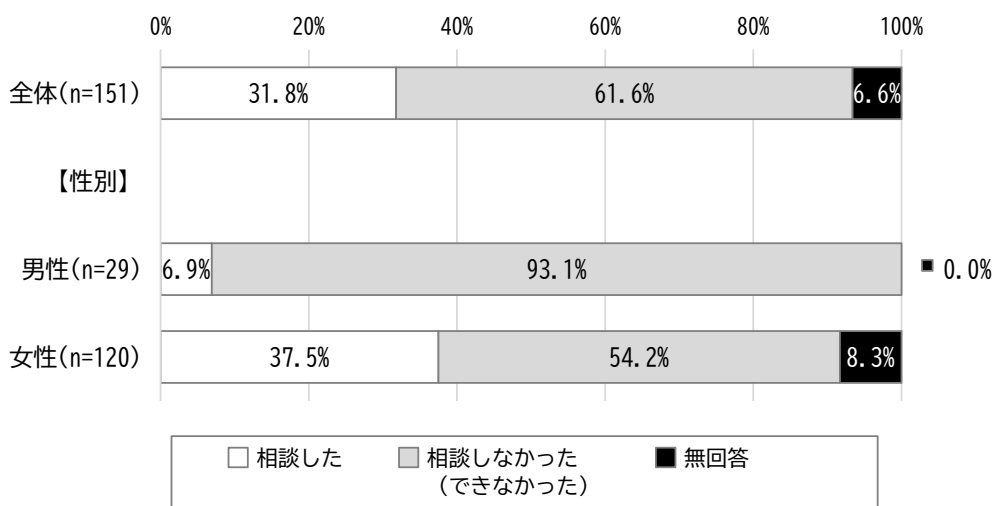
※暴力が『あった』と答えた方の回答

■ DV被害について、全体では、「相談しなかった(できなかった)」が約6割

■ 性別では、「相談しなかった(できなかった)」で、女性が5割強

相談したかについては、「相談した」が31.8%、「相談しなかった(できなかった)」が61.6%となっています。

性別で見ると女性の半数以上が「相談しなかった(できなかった)」と回答しています。



暴力を受けた時の相談先 (問 25-2)

※「相談した」と答えた方の回答

■ 相談先は、「家族・親族」が多い

相談先については、「家族・親族」が48件中25件、次いで「友人・知人」が21件、「警察」が9件となっています。

項目	度数	比率
警察	9	18.8%
前橋市配偶者暴力相談支援センター	1	2.1%
群馬県女性相談支援センター	4	8.3%
弁護士等	5	10.4%
民間の機関	1	2.1%
医療関係者(医師、看護師等)	3	6.3%
家族・親族	25	52.1%
友人・知人	21	43.8%
学校関係者(教員、養護教員等)	0	0.0%
その他	1	2.1%
無回答	0	0.0%
回答者数	48	

※回答者数が少ないため、表のみ掲載

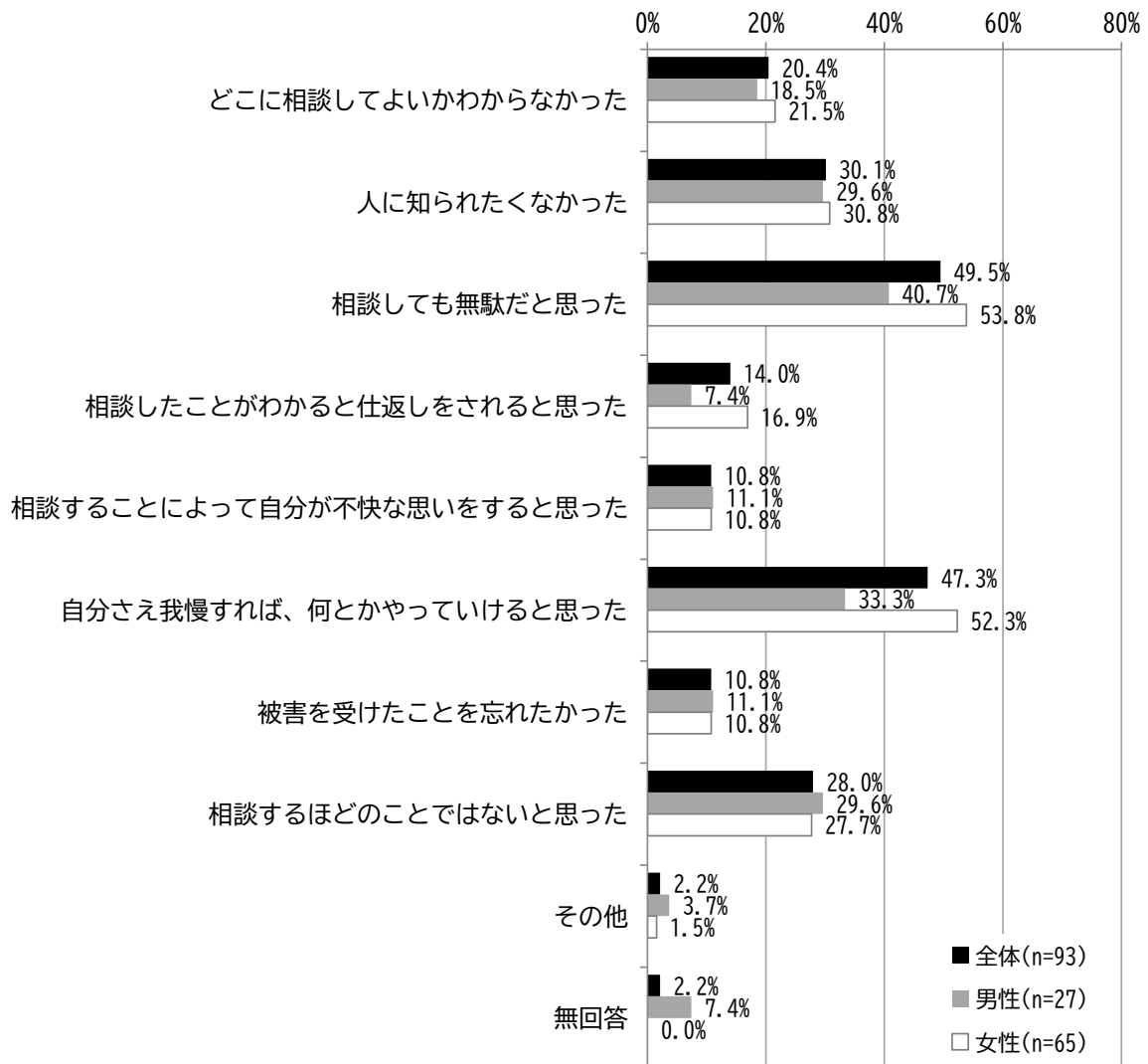
相談しなかった（できなかった）理由（問 25-3）

※「相談しなかった（できなかった）」と回答した方の回答

■ 相談しない理由は、全体では、「相談しても無駄だと思った」が約5割

「相談しても無駄だと思った」が 49.5%と最も多く、次いで「自分さえ我慢すれば、何とかやっていけると思った」が 47.3%、「人に知られたくなかった」が 30.1%、「相談するほどのことではないと思った」が 28.0%となっています。

性別で見ると、女性で「相談しても無駄だと思った」「自分さえ我慢すれば、何とかやっていけると思った」の回答が多くなっています。

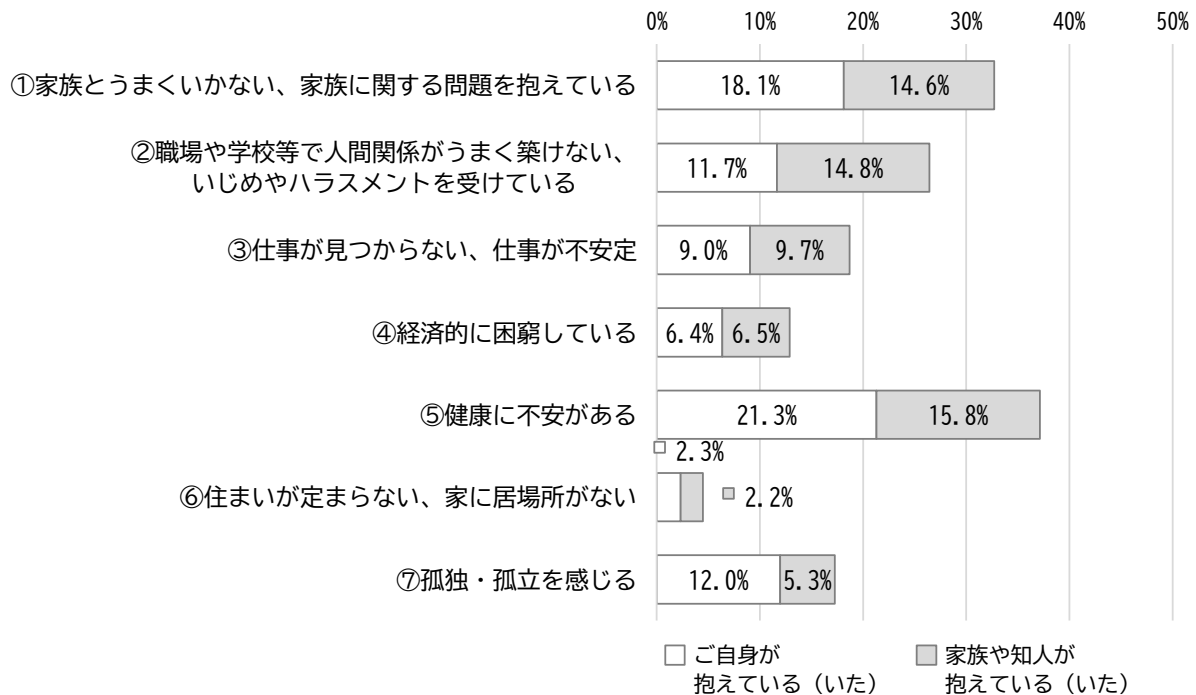


11 困難な問題を抱える方への支援について

抱えている困難や悩みの有無 (問 28)

■ 全体では、悩みや困難は、「ご自身が抱えている(いた)」では、「⑤健康に不安がある」が、約2割

「ご自身が抱えている (いた)」では、「⑤健康に不安がある」が 21.3%と最も多く、次いで「①家族とうまくいかない、家族に関する問題を抱えている」が 18.1%となっています。

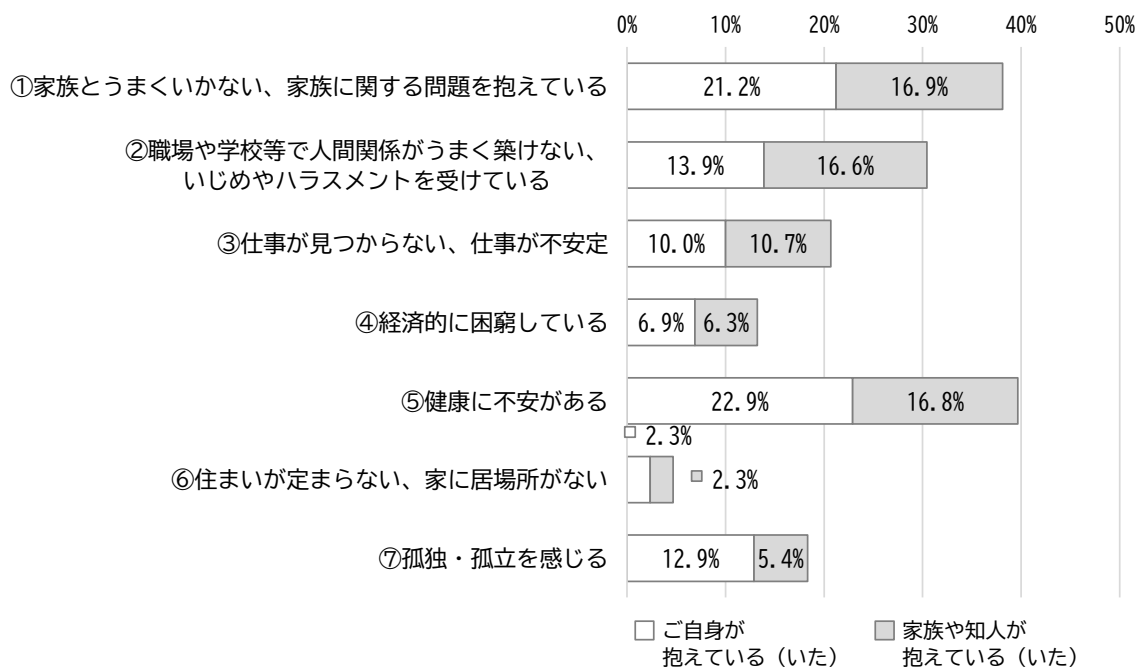


(n=1,605)

【女性のみ集計】

■ 女性だけの回答では、家族に関する問題は、「⑤健康に不安がある」が約4割

家族とうまくいかない、家族に関する問題について、女性のみで比較すると「⑤健康に不安がある」が『問題を抱えている (いた)』で、39.7%と最も多く、次いで「①家族とうまくいかない、家族に関する問題を抱えている」で、38.1%となっています。



(n=900)

抱えている困難や悩みの相談先 (問 29)

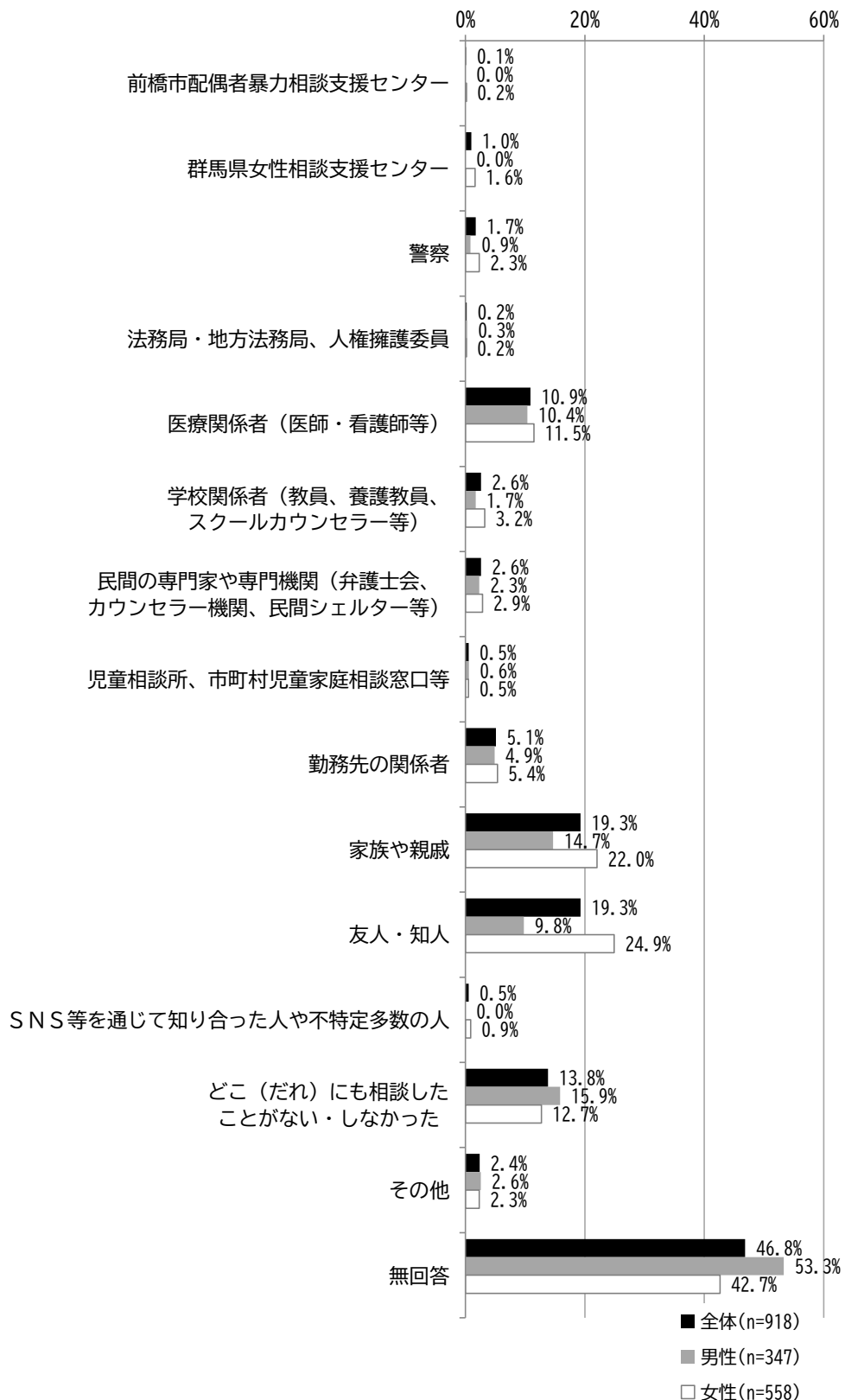
※「ご自身が抱えている (いた)」「家族や知人が抱えている (いた)」と答えた方の回答

■ 相談先は、全体では、「家族や親戚」「友人・知人」がそれぞれ約2割

■ 性別では、「友人・知人」で、男性より女性が 15.1 ポイント多い

「家族や親戚」「友人・知人」がともに 19.3%と多く、次いで「医療関係者 (医師・看護師等)」が 10.9%となっています。

性別でみると「友人・知人」で男性より女性が 15.1 ポイント多くなっています。



相談しない・しなかった理由 (問 30)

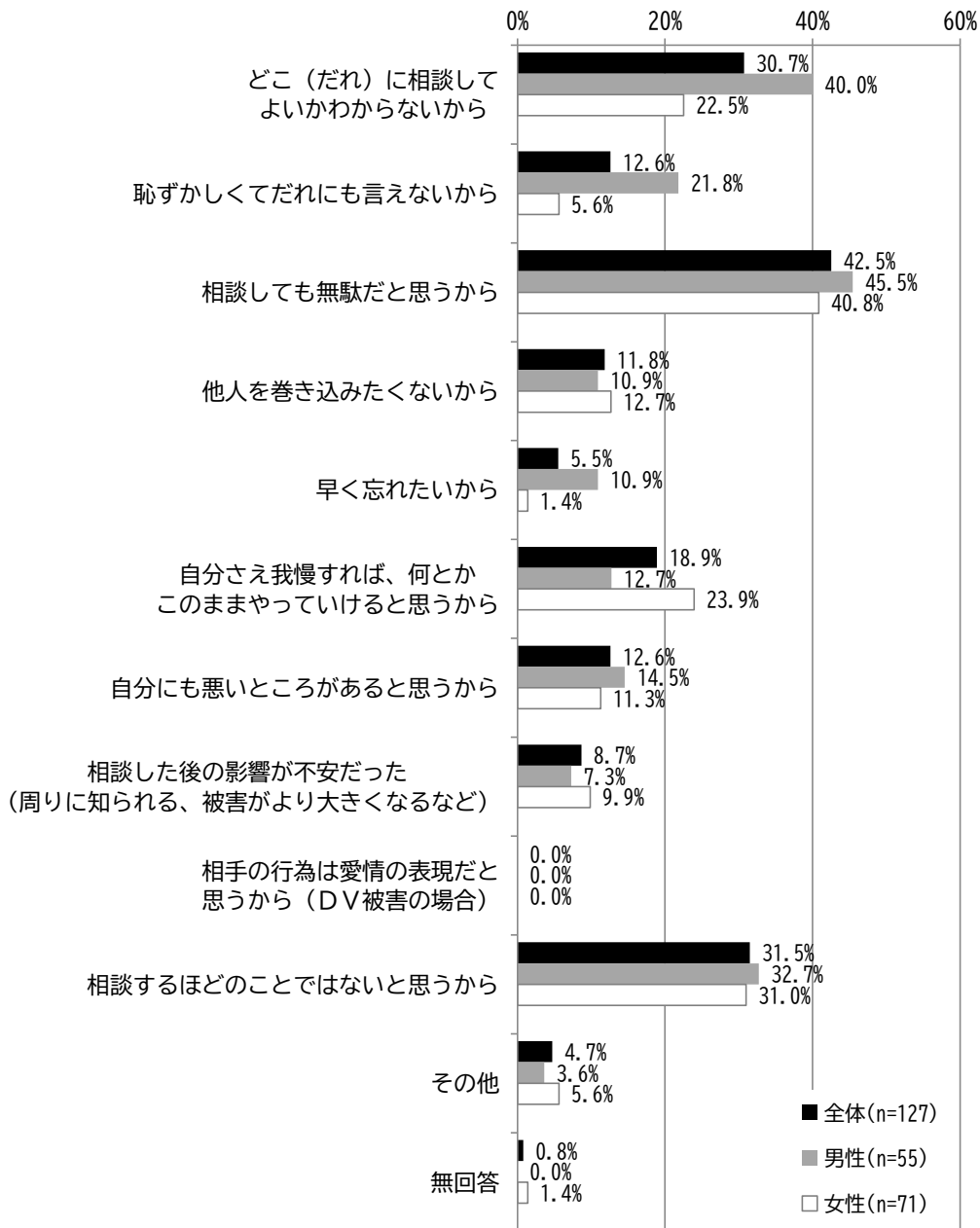
※「どこ(だれ)にも相談したことがない・しなかった」と答えた方の回答

■ 相談しない理由は、全体では、「相談しても無駄だと思うから」が4割強

■ 性別では、「どこ(だれ)に相談してよいかわからないから」「恥ずかしくてだれにも言えないから」で、女性より男性が多い

相談しても無駄だと思うから」が 42.5%と最も多く、次いで「相談するほどのことではないと思うから」が 31.5%、「どこ(だれ)に相談してよいかわからないから」が 30.7%となっています。

性別で見ると性別で見ると、「どこ(だれ)に相談してよいかわからないから」で 17.5 ポイント、「恥ずかしくてだれにも言えないから」で 16.2 ポイント女性より男性が多くなっています。



男女共同参画に関する市民意識調査報告書
【概要版】

令和8年3月

前橋市 市民部 共生社会推進課 人権・男女共同参画係
TEL : 027-898-6517 (直通)
E-mail : sankaku@city.maebashi.gunma.jp
